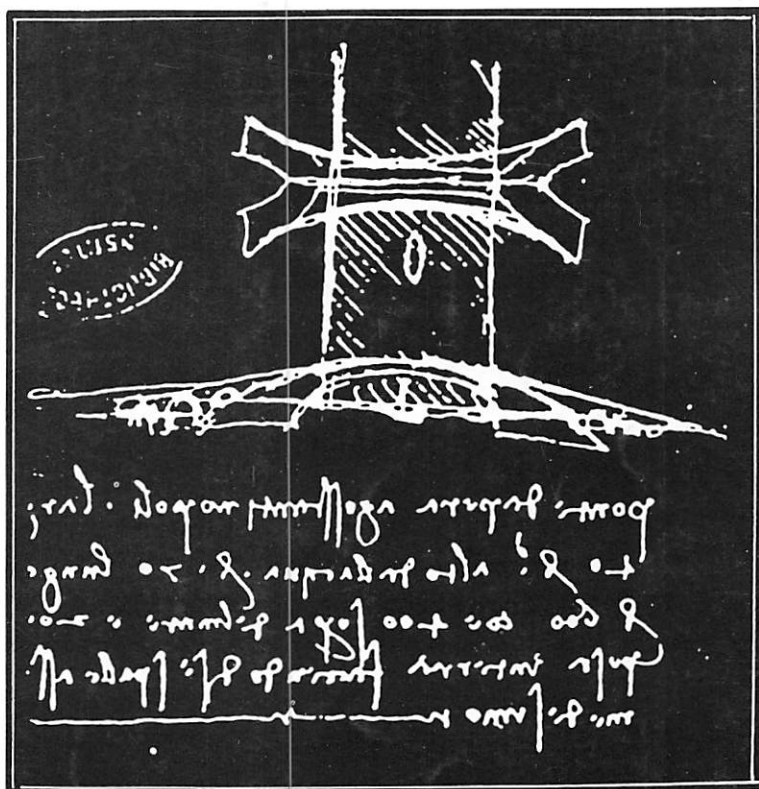


# KABSE

# 2

九州橋梁・構造工学会会報 第2号 1985

KYUSHU ASSOCIATION FOR  
BRIDGE AND STRUCTURAL ENGINEERING



# 目 次

巻 頭 言	陣 内 孝 雄	1
第2回総会・特別講演会		2
思い出の工事      — 若戸橋 —	川 崎 偉志夫	4
講習会報告      「マイコンによる有限要素解析」	事業部講習会小委員会	6
分科会活動報告	研究連絡小委員会	8
<b>工事紹介・報告</b>		
(1) 山陽自動車道(徳山西IC~山口IC)	建設省中国地方建設局	13
(2) 都市モノレール小倉線	北九州市、他	14
(3) 那の津地区上部工(鋼桁)架設工事	福岡・北九州高速道路公社	14
(4) 福岡市臨海土地整備事業	福岡市港湾局、他	15
(5) 九州横断自動車道(湯布院~大分)	日本道路公団	16
(6) 九州縦貫自動車道(球磨川第二、第三橋)	日本道路公団	17
(7) 一般国道218号(青雲橋)	宮 崎 県	18
(8) 一般国道326号道路改良工事	九州地方建設局	18
(9) 花瀬大橋	鹿 児 島 県	19
(10) 瀬底大橋	沖 繩 県	20
(11) 樺島大橋	長 崎 県	20
ほのぼの随筆      — 切手は小窓、心の小窓 —	宮 越 堯	22
Q & A		25
会 務 報 告		26
総 会		
理 事 会		
運営委員会		
小委員会		
会則・分科会規定		30
役員・運営委員名簿		35
会 員 名 簿		39

# 会告

## ◎ 論文集創刊号の原稿募集 ◎

本年12月、本会論文集の創刊号を発行致します。内容は論理的なものより、むしろ実用的価値の高いものが歓迎されます。詳しくは投稿要領を送付致しますので、ご参照の上ふるってご投稿下さい。

## ◎ Q & A コーナー新設 ◎

会員諸氏には技術的な難問に出くわされた経験がおりかと拝察します。そんな時、迷わず下記の〈Q & A〉担当者に葉書でご一報下さい！ 直に、その道のベテランに回答して頂く様、仲介の労をとります。

質問状には〈氏名〉、〈連絡先(含TEL)〉、〈質問事項〉をお書き下さい。急を要する場合は電話での申し込みも結構です。

なお、質問・回答は次回の会報に無記名で掲載させていただきます。(本号25ページ参照)

[担当者]

出光 隆 〒804 北九州市戸畑区仙水町1の1 九州工業大学開発土木科 (TEL 093-871-1931)

烏野 清 〒812 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学工学部土木工学科 (TEL 092-641-1101)

藤井利治 〒810 福岡市中央区天神1丁目10-1 福岡市土木局道路部道路建設課 (TEL 092-711-4464)

## ◎ 新 刊 案 内 ◎

九州橋梁・構造工学研究会 道路橋の限界状態設計法分科会誌

カナダ・オンタリオ州道路橋設計規準

1983年版(Ⅰ共通編・鋼橋編Ⅱ同解説)

B5版/Ⅰ(260ページ)、Ⅱ(150ページ)

定価 1000円(第1種正会員)、無料(第2種正会員)、1500円(会員外)

本書は、九州橋梁・構造工学研究会の「道路橋の限界状態設計法分科会」の59年度調査研究成果として2分冊にして報告するもので、その内容は、限界状態設計法による世界初の道路橋示方書であるカナダ・オンタリオ州の道路橋設計規準(Ontario Highway Bridge Design Code)

1983年版を邦訳したものである。

○申込先：九州橋梁・構造工学研究会事務局

〒810 福岡市中央区天神1-10-1 福岡市土木局道路部道路建設課 藤井 利治宛

○申込方法：書籍名、送付先を明記のうえ、前金にてお申込み下さい。

# 巻頭言



建設省  
九州地方建設局長

陣内孝雄

昭和58年11月11日に、九州内外の産業界、学界、官界の有志が集い設立された「九州橋梁・構造工学研究会」が、その後、順調に活動されておりますことは、誠に喜びに堪えません。改めて申し上げるまでもありませんが、本会は産・学・官各界の技術者・研究者の技術的交流の場として、多くの先輩、団体の支援を得て設立されたものであり、着実な活動により、土木工学の発展に寄与することを期待するものであります。

九州は、先端技術集積都市としての地域振興を図るテクノポリス計画が6地域で指定されるなど、時代の先取り精神に富んだ地であります。土木の分野においても、時代の最先端を行き、我が国を代表するような橋梁・構造物が数多く建設されてまいりました。当時東洋一といわれました西海橋、本州と九州を道路でつないだ関門国道トンネル、我が国の長大吊橋の幕開けとなった若戸大橋、つい最近まで日本一の支間長を誇った関門橋等、枚挙にいとまがありません。

一方、経済社会は、安定成長のさ中にあり、公共事業費も抑制を余儀なくされ、将来的にも多くは期待されない状況にあります。しかし、国民的要請は、多様化、高度化しております。このような状況の中で土木構造物の建設、維持管理等にも、今まで以上に合理性、効率性が求められるようになっており、今後の技術開発に負うところが大きいものであります。建設省と致しましても、建設技術開発会議を設け、総合技術開発プロジェクトを指定し推進する等、建設技術の開発を積極的に進めているところであります。

このような土壌と時代の中で生まれた本会におきましては、分科会等の確実な活動を通じ、産・学・官各界の技術者、研究者の技術的交流により、相互の技術・知識の向上を図り、九州の橋梁・構造技術発展の拠点として機能していくことを切望致します。あわせて、橋梁・構造の技術者、研究者の立場からの望ましい九州の未来像の提案・描写がなされることを心より念願致す次第であります。

# 第2回総会・特別講演会

## 〔総 会〕

昭和59年6月15日、福岡市東区の九州大学同窓会館において第2回（昭和59年度）総会を開催した。

昭和58年度事業経過報告、昭和58年度収支決算報告、昭和59年度事業計画案及び昭和59年度予算案を審議し、いずれも原案どおり承認可決した。

次いで、会則改正案（改正の要点は下記のとおり）について、審議された原案どおり承認可決された。

### 会則改正の要点

1. 本会の事業内容を、より明確に記述した。  
（第4条）
2. 特別会員の推薦、承認について規定した。  
（第5条）
3. 役員のうち理事・監事を総会において選出し、会長と副会長は理事の互選によるものとした。  
（第8条）
4. 役員会を理事会に改組し、その定足数、議決事項について規定した。（第13条）
5. 運営委員会の委員長は、理事の中から選任することとした。（第17条）
6. 分科会の設置について規定した。（第19条）

新会則により選出された理事・監事は、次の方々である。なお、理事のなかから会長・副会長が選任され、会長が運営委員長を選任した。（敬称略）

会 長	小坪 清真	（九州大学教授）
副 会 長	三池 亮次	（熊本大学教授）
運営委員長	太田 俊昭	（九州大学教授）
理 事	山本 茂樹	（九地建企画部長）
同	田中 美三	（福岡県土木部長）
同	青木 謙三	（九電常務取締役）
同	筒井 寅吉	（博多港開発KK副社長）
同	甲斐 栄一	（西松建設九州支店長）
同	水田 権作	（富士PS福岡支店長）
同	西山 徹	（日本橋梁建設協会 <small>専務理事</small> ）
同	吉開 正文	（第一復建副社長）
監 事	瀬戸 弘海	（鹿島建設九州支店長）
同	中西 茂雄	（オリエンタルコンクリート福岡支店長）

（昭和59年6月15日現在）



第 2 回 総 会

## 〔特別講演会〕

総会終了後、同所において社団法人土木学会西部支部との共催による「土木施設の計画に関する講演会」が、108名の参加のもとに催された。

講演題目及び講演者は次のとおりである。(敬称略)

### 1. 土木計画と快適環境

東京工業大学社会工学科教授 中村 良夫



中村 良夫氏



西田 巖氏

### 2. 充腹式アーチ橋の計画と設計

日本道路公団福岡建設局構造技術課長

西田 巖



懇親会

## 〔懇親会〕

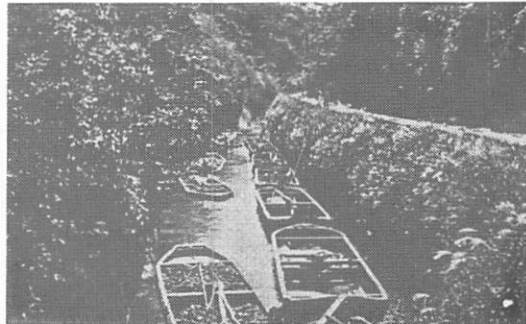
講演会が成功裡に終わった後、懇親パーティを催し官・学・業界より多数の参加を得て橋梁・構造工学の話に花が咲き、盛況のうちに総会、講演会の催しを完了した。

## 《ミニ九州土木史》

### 堀川開鑿と黒田騒動

〈堀川〉は香月町楠橋で遠賀川から分流し、東北に流れ、折尾を過ぎ洞海湾に注ぐ全長約7.2kmの運河である。慶長5年、筑前国に封ぜられた黒田長政は、遠賀川水害の莫大なることを聞き、直に農民救済の治水を旨とした堀川開鑿(削)工事に着手した。その総司は栗山大膳利章である。しかるに、長政没後、二代藩主忠之と大膳はこと毎に意見が合わずその確執は凄しく、世に言う「黒田騒動」にまで発展した。ついには、幕府老中方の裁決で大膳は陸奥南部藩へ流され、工事も中止のやむなきに至った。約100年を経た宝暦元年、櫛橋又之進祐克は、藩租長政の意志がなおざりにされていることを遺憾とし、時の藩主継高の許しを得て工事を再開した。以後も岩盤を掘り進む等難工事が続き、完成をみたのは実に、着工から140年後の宝暦12年である。長政は当初の目的を第1治水、第2交通、第3灌漑としたが、完成後は筑豊炭田の発見により交通第1、第2灌漑、第3治水となったのは周知の通りである。写真は若松へと石炭を運ぶ川楫でにぎわった頃の堀川である。

長政の英断、祐克の忠信が、後に、火野葦平の名作「花と龍」を生んだと言えまいか。



## 思い出の工事

### 若戸橋



日本鋼管(株)顧問

川崎 偉志夫

開通23年になる若戸橋の4車線拡幅も現実の問題となった。調査出張所開設が昭和30年。工事竣工まで7年半を現地で過ごすことができたのは、幸運の一語につきる。昔話で恐縮であるが、今日の技術水準と対比しながら、思い出を述べてみたい。繰り返すことになる点は御容赦願いたい。

型式としての吊橋は、今日であれば斜張橋となったかもしれない。当時としては、その規模(中央径間367m)のほかに、設計や架設面での鋭敏さの故に自信が持てなかったと記憶する。寸法誤差等が応力変動に与える影響は、吊橋のほうがはるかに鈍感である。なにしろ手廻し計算器を奮い合う時代のこと、ボタンひとつで結果が得られる今日とは比較にならない。架設用機材や精度保持の方法など、今日であれば比較的容易な点は、数多くの実例が示すとおりである。

吊橋の径間割は、現在であれば、主塔とアンカーブロックの間に側塔を設けなかったであろう。当時としては、アンカーブロックの基礎として、平面寸法34m×15m程度のケーソンが、施工実績等からみて精いっぱいであったので、これを2基設けることにした。そうするとケーブルからの水平力の作用点をなるべく低くして、地盤反力を許容値以下にするためには、どうしても側塔が必要であった。今日であれば、実績からみても、平面積が上記の2

～3倍程度のケーソンは十分可能であり、地盤強度の評価方法にしても、格段の進歩である。

ケーソンを2基としたために、連結帯が必要であり、この部分は設計上も施工面でも問題が多かった。上部面では、側塔の存在のため、地震力の扱いも複雑であり、架設作業も煩雑で、それだけ精度も下がる理屈である。

余談になるが、昭和32年に吊橋の勉強で米国出張させて頂いたとき、吊橋に関しての両巨頭であるアンマン氏とスタインマン氏に、側塔についての意見を聞いた。アンマン氏は絶対反対であり、スタインマン氏は大賛成であった。下手な英語での質問ではあるが、共に強い意見であったことは間違いないと思っている。この点結局は工費の比較によるが、大差がない場合は、単純な構造のほうが、維持管理も含めて得策であろう。

ケーブル用ピアノ線を国産品にするか輸入するかが論争の種になった。現在では信じられない話である。

論争と言えば、鋼構造部を溶接かリベットかも大論争であった。設計を固めた時期が昭和32、33年であり、全国的にも溶接からリベット、そして現場はボルトに移行しつつあった時期である。結局保守流が勝って、すべてリベットとしたが、昭和35年、現場架設が始まるころには、全国的にリベット工が不足したことで、塔柱部のリベット打ちが炎熱

のもとで最悪の条件となり、一部ボルトに切りかえて、進歩派からはそれ見たことかと悪口を言われた。どちらが正しかったかの批判もさることながら、時の流れだと思う。

コンクリート総量約10万 $m^3$ は、粗骨材に碎石を用いた。現在では全国的に川砂利の不足で当然のことであるが、当時としてはいろいろと問題点が指摘され、試験を繰り返した。コンクリートポンプはむろん現われていないし、バケットとシュートの併用で打設したが、品質全体としては、劣っていないと思っている。

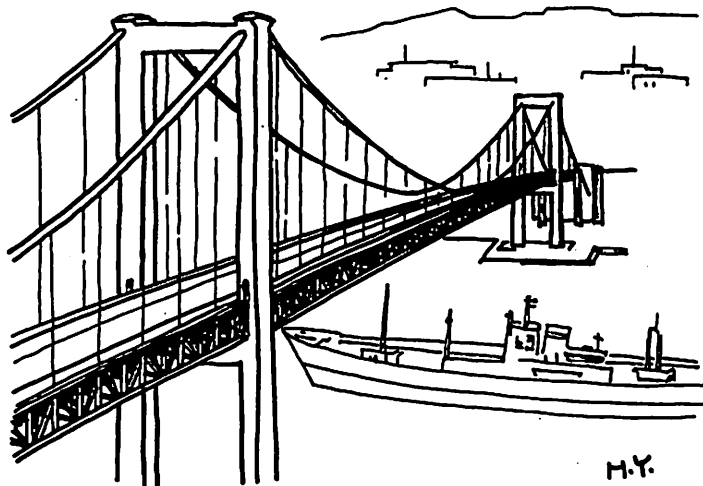
取付部の高橋脚に採用した鉄骨鉄筋コンクリートの設計は、現在の設計法に比べて単純過ぎたかもしれないが、施工中の型枠保持の点では鉄骨が効果的であった。今日では日常茶飯に属することであるが、当時珍らしがられた記憶が残っている。

鉄筋コンクリート床版打設の時期になって、黒崎に生コン工場ができたのでそれを用いたが、開通数年後に床版にクラックが発生している。言い訳になるが、コンクリートの品質によるものではなく、床版厚をもう少し大きくすべきであった。このことは

後に示方書の改訂がなされている点からも裏づけられる。吊橋のようにたわみの大きい構造では、むしろ本四連絡橋のように鋼床版が正解かもしれない。この点調査時代に一応考えてはみたが、当時は全国的にもほとんど実例がなく、舗装にも自信がもてなかった。今回の4車線拡幅に際し、鋼床版舗装の成功を祈りたい。

N値ってなんですか?から始まった若戸橋ではあったが、良き師良き友に恵まれて、昭和37年9月に開通した。管理段階に入っても時折見せてもらっている。良き管理がなされていると感謝する反面に設計時または工事段階でこうしておくべきであった、何故こうしておかなかったかと思うことも多い。当時者であった者の1人として、よろしく願って終りとしたい。

追記：橋の正式名称が若戸大橋であることは承知しているが、あえて若戸橋の標題とした。関門・本四はじめ、巨大構造が実現している今日、もはや、「大」の字ではなかりょう。ノスタルジアとして笑殺して頂ければ幸いである。



(元・やまもとひろし K.I.T.)



## 講習会報告

# マイコンによる有限要素解析

事業部講習会小委員会

### 1. はじめに

近年、有限要素法が普及し、非常に広く使われるようになっており、好きでも嫌いでも勉強し、使わなければならない時代になっている。これに伴い、解法に汎用的な優秀なプログラムが普及し、ブラックボックスとして有限要素法を使用できるようになっている。しかし、汎用プログラムを読んだり、関係者と話し合ったりする場合、有限要素法の考え方や必要最小限の数学(マトリックス)も理解しておく方が良い。

本講習会は有限要素法の理論として骨組構造解析における荷重や温度変化についてやさしくかつ詳しく説明し、プログラムの作り方、ファイルの利用の仕方、汎用プログラム(たとえば現場における仮設構造物の骨組計算に適用できる)の紹介を行いさらにマイコン(16ビット)による実習までを一貫して行うものである。

マイコンによる有限要素解析実習では講師が作成した対話形式の汎用プログラムを使って受講者自身がマイコンを専用しながら有限要素法の基礎を理解することができる。このプログラムではメニューがいろいろ準備されておりたとえばデモ用として簡単な例題が準備されており、データを入れれば結果を視覚的にとらえることができるようになっているのがその特徴である。

以上のように本講習会は有限要素法をはじめて学ぶ人でもその理論から使い方の基礎を習得できるよう配慮した。

### 2. 実施要領

本講習会は土木学会西部支部との共催で行った。土木学会誌11月号に案内を掲載するとともに本学会員に案内状を郵送した。以下にスケジュールを記す。

1 日時：昭和59年12月12日(水) 10:00~16:30

2 会場：福岡大学電子計算センター内  
情報処理教育教室(午前)および  
情報処理教育実習室(午後)

3 講師：福岡大学工学部土木工学科  
教授 黒木 健実  
佐賀大学理工学部土木工学科  
助教授 荒牧 軍治

4 内容：10:00~10:05 開会の挨拶  
土木学会西部支部長 和田 祐之  
10:05~11:00 骨組構造解析理論  
11:10~12:00 プログラムの紹介  
13:00~14:30 マイコンによる有限要素  
解析実習  
14:30~15:00 コーヒーブレイク  
15:00~16:30 マイコンによる有限要素  
解析実習

### 3. 経過報告

12月5日時点での申し込みは114名に達し、定員の100名を超過した。定員は100名であったが、借用できるマイコン台数が50台になったことや実習室のスペースから70名程度を選考せざるを得ないことになった。同一職場から2人以上の参加は御遠慮願うことにし、78名の受講者を選考させていただいた。

当日の受講者は72名で本会の会員は51名であった。受講者の所属を分類すると市22、建設会社15、コンサルタント13、大学7、建設省・運輸省5、二次製品メーカ4、県2、その他4名である。

#### 4. 受講者の意見および感想

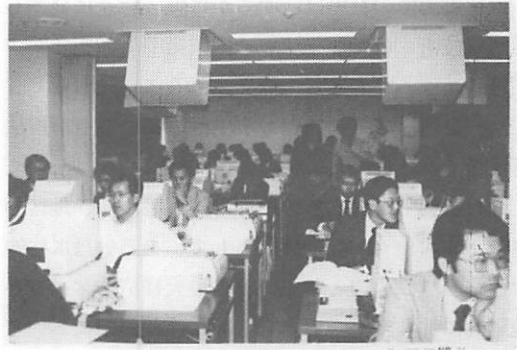
講習会後にとったアンケート結果をまとめると満足である26、やや不満足29、不満足5名、無回答12名のとおりであった。満足と答えた内容は今後も希望する、大変勉強になった、実習がおもしろかった等である。やや不満足であることとして理論の説明がもっと欲しい、プログラムの説明不足などが挙げられ、不満足な点として理論の説明不足と答えたものもあった。

#### 5. あとがき

本会第1回目の講習会であったが、新設の福岡大

学電算センターにおいての講習会を滞りなく開催できたものと思う。しかし、アンケートの回答にもあるような不満足な点は講習内容や対象受講者のレベルの明記、講習日数や回数の増加等で改善しなければならないと思う。

最後に講師の黒木、荒牧両先生、大崎助手ならびに電算センターの職員各位にお礼申し上げます。



講習会風景

### ◀ ミニ知識 ▶

#### ソフトの互換性について

まずパソコン同士の間での互換性であるが、アプリケーションソフトの言語が Basic であれ Fortran であれ、まず両方の機種でそれらの言語をサポートしていることが必要である。次にソースプログラムであることが必要である。この2点を満足していればまず何とかなるといえる。

現在パソコンのフロッピーディスクには、8インチサイズや5インチサイズがあるが、フロッピーのサイズが異なる場合には外付けのディスクドライブを使用すればできる。フロッピーディスクを備えたマイクロコンピュータのOSのことをFDOS (Floppy Disk Operating System) といひフロッピーディスク装置とのデータ転送やファイル管理の機能を持っているが、このファイル管理処理上のフォーマットが機種によって異なっている。たいていの機種はIBM機と互換性のあるフォーマットにしているが、IBM機と異なるフォーマットを採用している場合でも、ファイルトランスレーターというユーティリティソフトを準備しているはずである。したがって、機種間でファイルのフォーマットが異なっても、A機種で使っていたプログラムのソースをB機種におけるプログラムソースとして読むことができる。

——— 和田忠治「パソコン事情」(「土木とコンピュータ」1984年 №3) ———

# 分科会報告

研究連絡小委員会

## ◆ 「斜張橋の設計と施工」翻訳分科会

### <目的>

近代斜張橋の登場は、明らかに戦後急速に発達した溶接技術、軽量の鋼床板や薄肉箱桁（鋼桁）および優れたケーブル素材の開発、さらには、コンピューターを活用しての精緻で汎用性の高い構造解析法の発展に負う所が大きい。

今日、斜張橋は、その形態の美しさから、地区のシンボルマーク的な歩道橋として、あるいは本格的な道路橋や鉄道橋として、その最大経済的スパンを飛躍的に伸ばしつつある。ちなみに、我が国においては、昭和36年にスパン804mの神納橋が建設されてより、現在では、本四岩黒橋420m、横浜ベイブリッジ460mなどの最大スパン400~500m級の斜張橋が計画中もしくは架設中である。また、Leonhardt 博士によれば、1000m級のものもこの範疇に入る可能性が高いことが述べられている。

このような趨勢を反映して、斜張橋に関する技術論文や工事報告等が、国内外で多数発表されてきており、橋梁工学における重要なジャンルを形成していることはいうまでもない。

しかしながら、この分野に興味をもつ技術者あるいはこれから学ぼうとする人々にとって必要な斜張橋に関する入門的解説書は少ない。

W.Podolny らの“Construction and Design of Cable-Stayed Bridges”は、斜張橋の歴史、構造ディテール、架設法、設計法、経済評価など、斜張橋全般にわたって解説した数少ない成書の一つといえる。

そこで、本分科会は、この成書を翻訳出版することによって、橋梁工学の発展に貢献することを目的とし、同時に、翻訳した内容について勉強会、検討会を開き、本分科会参加委員の間で技術情報・知識

の交換を行い、各自の技術向上を期すものである。

### <昭和59年度活動状況>

昭和59年度の本分科会の活動は、昭和59年4月1日~昭和60年3月31日で完了する予定であった。しかしながら、委員数が26名で、その構成も本会の趣旨に従い、学・官・業の3界に渡っているため、相互の連絡や訳文の調整に相当な手間と時間を要し、さらに勉強会においては、出席委員の意欲が高く、討論も熱心に行われ、このため、本年度完了予定の半分の量しか進み得なかった。慎重を期し、残りの翻訳内容については、昭和60年4月1日より、継続した勉強会を開き、検討する予定である。

本年度に開催した会合は計7回で、その内容を以下に列記する。

- (1)昭和59年4月6日、於九州大学工学部土木工学教室会議室、出席者13名、内容：「斜張橋の設計と施工」翻訳打ち合わせ（出版形式、和訳分担、年間スケジュール等）
- (2)昭和59年11月17日、於オリエンタルコンクリート㈱福岡支店会議室、出席者15名、内容：第1章および2章の内容検討ならびに出版契約について。
- (3)昭和59年12月1日、場所は前回と同じ、出席者12名、内容：第3章の内容検討ならびに図表中の凡例や文中の単位の統一について。
- (4)昭和59年12月15日、場所は前回と同じ、出席者10名、内容：第5章の内容検討ならびに斜張橋に関する最新情報の掲載について。
- (5)昭和60年1月19日、場所は前回と同じ、出席者10名、内容：第5章後半および第6章の内容検討。
- (6)昭和60年2月2日、場所は前回と同じ、出席者10名、内容：第7章の内容検討。
- (7)昭和60年2月9日、場所は前回と同じ、出席者8名、内容：第7章後半および第8章の内容検討ならびに今後の活動計画について。

### <昭和60年度活動計画>

昭和59年度に引き続き、“Construction and Design of Cable-Stayed Bridges”を分担和訳した内容、ならびに国内外の斜張橋の現況および設計法の趨勢について5~6回の勉強会を開催する。また、和訳本は、翻

訳出版権の正式手続きを完了しており、九州大学出版会より出版予定である。

〈委員構成〉 (順不同、敬称略)

(氏名)	(勤務先)	(摘要)
太田 俊昭	九州大学工学部	主査
川井 優	建設省九州地方建設局	副査
牧角 龍憲	九州大学工学部	幹事
鳥野 清	"	
角 知憲	"	
中沢 隆雄	宮崎大学工学部	
松下 博通	九州大学工学部	
大和 竹史	福岡大学工学部	
吉村 健	九州産業大学工学部	
井上 朝登	福岡北九州高速道路公社	
北之園 宏	建設省九州地方建設局	
藤井 利治	福岡市土木局	
前田 良刀	日本道路公団福岡建設局	
今井 義明	大成建設㈱	
金光 英雄	鹿島建設㈱	
江草 拓	三菱重工業㈱	
澤山 民季	建設省九州地方建設局	
林田 竹雄	前田設計㈱	
峰 嘉彦	横河橋梁製作所㈱	
手島 和男	オリエンタルコンクリート㈱	
藤本 良雄	富士ピーエスコンクリート㈱	
佐竹 正行	㈱構造技術センター	
長崎 謙二	㈱千代田コンサルタント	
丸山 巖	大分工業高等専門学校	
三浦 正昭	日本文理大学工学部	
宮地 宏吉	パンフィックコンサルタント㈱	
南里 隆幸	福岡市土木局	

◆ 長大斜張橋の開発に関する分科会

〈目的〉

本分科会は、斜張橋を主桁支持方式の相違から分類した完全定着式・部分定着式・自己定着式の3種

の斜張橋の力学特性を多角的に究明し、真に経済的・合理的な長大斜張橋の構造モデルを提示することを目的とする。

上記の目的を遂行するために、以下の諸点に関し現在、調査研究を鋭意続行中である。

- (1) 線形・非線形解析による各種斜張橋の静力学的特性の把握
- (2) 固有振動解析・地震応答解析・走行荷重応答解析による各種斜張橋の動力学的特性の把握
- (3) 最適化理論による各種斜張橋の最適設計
- (4) 耐風安定性の検討
- (5) 合成斜張橋の検討

〈昭和59年度活動状況〉

調査研究内容は上述のように多岐にわたっているため、別記のような委員構成とし、それぞれの専門分野から研究をお願いしている。

59年度の活動としては、2回の会合を開き、部定式斜張橋の基礎的力学特性、斜張橋の温度応力解析、斜張橋の最適設計、斜張橋の風洞実験に関し委員の研究成果の発表を行なった。また、オブザーバーとして、斜張橋の解析・施工に豊富な経験を有しておられる川田工業㈱の前田研一氏にご出席いただき斜張橋の設計・施工上の問題点についてご講演をお願いした。

研究成果の一部は、59年度土木学会西部支部研究発表会(昭和60年2月17日、鹿児島市)において、「部分定着式長大斜張橋の力学特性」、「部分定着式斜張橋の最適設計」と題して発表した。

〈昭和60年度活動計画〉

60年度の事業予定としては、上記の研究成果に加えて、他の調査研究項目もまとめ上げ、学会発表ならびに調査報告書の作成を計画している。

〈委員構成〉 (順不同、敬称略)

(氏名)	(勤務先)	(摘要)
大塚 久哲	九州大学工学部	主査
水田 洋司	八代工業高等専門学校	副査
内谷 保	鹿児島工業高等専門学校	
大江 豊	佐世保重工業㈱	

太田 俊昭 九州大学工学部  
 岡林 隆敏 長崎大学工学部  
 久保 喜延 九州工業大学  
 小林 一郎 熊本大学工学部  
 高橋 和雄 長崎大学工学部  
 彦坂 照 九州大学工学部

◆ 各種土木構造物・地盤の振動、  
 耐震に関する研究分科会

＜目的＞

最近になって、島原の群発地震、日向灘沖地震など九州においても地震が発生しており、将来大きな地震の可能性がない訳ではない。現在、九州において耐震に限らず、その他の振動に興味を持つ人や研究を行っている人が集まり、研究会、討論会を通して、お互いの意見交換などを行うと共に、それらの中から協同研究などの輪を広げていくことを目的とする。

＜昭和59年度活動状況＞

本年度において、3回の会合を開催したが、第1回目の会合において次の2つの研究テーマが決定された。

- (1) 交通、施工時、発破等から発生する振動・騒音公害の実態および予測と対策
- (2) 地盤と構造物の動的相互作用の実態と解析手法

以上のテーマに沿った実験データ、資料、文献を収集し、第2回、第3回の会合で討論が活発に行われた。その中で主なものを上げると次の通りである。

- (1) 路面の舗装状態と交通振動
- (2) 軟弱地盤における交通振動とその予測
- (3) 立体交差用陸橋の交通振動
- (4) 基礎杭打設、ベント杭施工時に発生する振動と騒音
- (5) トンネル施工時の発破による振動
- (6) 地盤と構造物の相互作用解析法とその問題点
- (7) 長野県西部地震に関する講演（後藤恵之助氏）

＜昭和60年度活動計画＞

分科会会員から収集した公害関係のデータを整理し、KABSEの多くの会員に資料として役立ててもらえるような印刷物（ワープロによるオフセット印刷）を発行することとした。ただし、現在収集されている量では不足しているので、広く官庁、地方公共団体、公団、公社等にデータ収集の御協力をお願いすることになっている。その際、この種のデータは非公開のものが多く収集が困難であること、また関係団体に御迷惑をかけたくない等の判断から、固有名詞を省略し、現場の判らない形で収集および整理を行なうこととなった。次に、地盤と構造物の動的相互作用に関しては、基礎形式などの具体的な構造物ごとに分担整理し、それに対する研究討論会を開くことになった。

＜委員構成＞

（順不同、敬称略）

（氏名）	（勤務先）	（摘要）
堤 一	宮崎大学工学部	主査
秋吉 卓	熊本大学工学部	副査
鳥野 清	九州大学工学部	幹事
荒牧 軍治	佐賀大学理工学部	
井嶋 克志	九州大学工学部	
石山 范	運輸省第4港湾建設局	
稲寺 隆	建設省九州地方建設局	
梅本 明宏	㈱奥村組	
奥田 尚弘	北九州市建設局	
河野 健二	鹿児島大学工学部	
久保 喜延	九州工業大学	
小坪 清真	九州大学工学部	
後藤恵之輔	長崎大学工学部	
小深田信昭	オリエンタルコンクリート㈱	
坂口 修	三井建設㈱	
佐竹 正行	㈱構造技術センター	
園田 敏矢	九州大学工学部（現大分工専）	
高西 照彦	九州工業大学	
中沢 隆雄	宮崎大学工学部	
成富 勝	九州大学工学部	
藤井 利治	福岡市土木局	

渕田 邦彦 八代工業高等専門学校  
水田 洋司 " "  
村山 隆之 福岡北九州高速道路公社  
八塚 博 日本道路公団福岡建設局

第3回会合 出席者23名  
OHBD Code の内容説明と討議  
調査研究報告書編集方針の打合せ。

(5)昭和59年11月  
各委員担当原稿を提出

(6)昭和59年12月8日 }  
昭和59年12月14日 } 調査研究報告書編集幹事会、  
昭和60年1月19日 }

(7)昭和60年3月

昭和59年度調査研究報告書(I)、(II)刊行

- ①調査研究報告書(I) (B5版、260頁)の内容
- ・限界状態設計法における構造物の安全性・使用性の定義と照査基準
  - ・カナダ・オンタリオ州における道路橋新設計規準制定の背景
  - ・オンタリオ州道路橋設計規準の特徴
  - ・カナダ・オンタリオ州道路橋設計規準1983年版 (共通編・鋼橋編)
- ②調査研究報告書(II) (B5版、150頁)の内容
- ・カナダ・オンタリオ州道路橋設計規準1983年版 (共通編・鋼橋編) 解説

<昭和60年度活動計画>

59年度に調査研究を行ったカナダ・オンタリオ州の設計規準のほか、わが国の「コンクリート構造物の限界状態設計指針(案)」、「コンクリート標準示方書改訂原案」、イギリスの「BS 5400」、西ドイツの「DIN 18800」等、各国の最近の設計規準を比較検討し、道路橋の限界状態設計法に関する会員の相互知識の向上を目指した活動を行う予定である。

<委員構成> (順不同、敬称略)

(氏名)	(勤務先)	(摘要)
彦坂 照	九州大学工学部	主査
崎元 達郎	熊本大学工学部	副査
大塚 久哲	九州大学工学部	幹事
久保 喜延	九州工業大学	"
石橋 治	第一復建機	"
今井富士夫	九州大学工学部	"

## ◆ 道路橋の限界状態設計法分科会

<目的>

土木・建築構造物の設計規準は、従来の許容応力度法から限界状態設計法に改められているのが世界的趨勢であり、欧米先進国の中には切換えを終えた国もある。わが国でのこれに関する取組みは、既に限界状態設計法指針(案)も刊行されているコンクリート構造が先行しているのに対し、鋼構造については必ずしもコンセンサスが得られていない。そこで、この新設計法登場の背景、特長、メリットを正しく理解し、併せて構造物の安全性・信頼性の評価に関する最新の話題について研究・討議するため、本分科会を設けたものである。

<昭和59年度活動状況>

限界状態設計法のフォーマットで書かれたカナダ・オンタリオ州道路橋設計規準(英文)をテキストにして、各委員による話題提供と討論を行った。また当分科会委員のみの勉強会に終らせず、成果を会員に還元するため、英文テキスト邦訳を含む調査研究報告書2冊(総計約410頁)を印刷・刊行した。

(1)昭和59年2月26日 於九州産業大学工学部会議室

第1回会合 出席者24名

趣旨説明と今後の活動方針討議。

Ontario Highway Bridge Design Code

(初版)配布、各委員担当箇所決定。

(2)昭和59年5月

OHBD Code(1983年版)配布

(3)昭和59年6月8日 於九州大学同窓会館大会議室

第2回会合 出席者24名

構造物の信頼性・安全性の評価について討議

OHBD Codeの内容検討

(4)昭和59年8月3日 於九州大学同窓会館大会議室

内谷 保 鹿児島工業高等専門学校  
 大江 豊 佐世保重工業(株)  
 岡林 隆敏 長崎大学工学部  
 久賀富美男 フジタ工業(株)  
 小林 一郎 熊本大学工学部  
 崎山 毅 長崎大学工学部  
 城 秀夫 (株)構造技術センター  
 高橋 和雄 長崎大学工学部  
 西村 信男 三菱重工業(株)  
 野口 宏一 建設省九州地方建設局  
 浜田 純夫 山口大学工学部  
 久松 好己 (株)PAL構造デザイン  
 日野 伸一 山口大学工学部  
 福山 俊弘 (株)福山コンサルタント  
 町田 健夫 新日本製鉄(株)  
 丸山 峯男 日本道路公団福岡建設局  
 水田 洋司 八代工業高等専門学校  
 村山 隆之 福岡北九州高速道路公社  
 山尾 敏孝 熊本大学工学部  
 山田 徹 フジタ工業(株)

## ◆ コンクリートの耐久性分科会

### ＜目的＞

本分科会の目的はコンクリートの性質の中で強度水密性と並んで主要な耐久性に関する諸問題を研究することにある。今回の活動期間では、九州地域でも山間地において冬期に生じる凍結融解作用をとりあげ既往の研究の整理とコンクリートの凍結融解抵抗性に関する研究、また最近、問題となっているアルカリ骨材反応に関する基礎的研究を行う。

### ＜昭和59年度活動状況＞

昭和59年12月15日に分科会第1回会合を開き、59年度研究活動計画について打合せを行った。昭和59年度はコンクリートの凍結融解抵抗性の改善方法に関する研究および九州地域におけるコンクリート用骨材の潜在反応性に関する基礎的研究を行った。

まず、コンクリートの凍結融解抵抗性については

海砂を用いたコンクリートおよび外部から浸透した塩分を含むコンクリートの凍結融解抵抗性を実験的に検討し、塩分の存在が凍結融解抵抗性を低下させる傾向を見出した。

つぎに、九州産骨材の潜在反応性では有害と判定されるものも存在するが、実際に使用される配合と養生条件で果して異常な膨張が認められるか検討を要する。

昭和60年3月に再び打合せ会を開き、59年度の成果報告および60年度の研究計画について打合せを行った。

### ＜昭和60年度活動計画＞

コンクリートの凍結融解抵抗性に及ぼす空気量、水セメント比、スランプ等の影響分析、海洋および海岸コンクリート構造物における塩分浸透問題、骨材の潜在反応性試験のばらつき、シリカフェームによるアルカリ骨材反応抑制効果等が60年度の研究テーマである。

### ＜委員構成＞

(順不同、敬称略)

(氏名)	(勤務先)	(摘要)
大和 竹史	福岡大学工学部	主査
江本 幸雄	"	副査
添田 政司	"	幹事
黒木 健実	"	
荒牧 軍治	佐賀大学理工学部	
大西 和栄	福岡大学理学部	
添田 朋子	福岡大学工学部	
辰本 朋子	"	
杉田 英明	九州電力(株)	
高瀬 義晴	大野コンクリート(株)	
丸山 峯男	日本道路公団福岡建設局	
小深田信昭	オリエンタルコンクリート(株)	

## 九州各県および山口県

# 工事紹介・報告

### ●山陽自動車道 (徳山西IC～山口IC)●

#### <実施場所>

徳山市大字戸田から山口市大字黒川まで

#### <事業主体>

建設省中国地方建設局

#### <事業期間>

昭和49年度～昭和62年度

#### <事業予算>

約1400億円

#### <概要>

山陽自動車道は吹田市から山口市に至る延長470キロメートルの高速自動車国道であるが、このうち、昭和47年に整備計画が決定された徳山市から山口市に至る延長31.6キロメートルを建設省山口工事事務所が施工を担当している。

施工が本格化したのは昭和53年度からであるが、昭和59年～60年は施工のピークを迎えている。

ルートは複雑な地形、地質を縫って走っているため、橋梁、高架、トンネルなどの構造物や大土工が多い。100メートル以上の構造物を拾ってみると、

橋梁	8	1800m
高架	15	5300m
トンネル	6	8700m

となっており、路線延長の50%を占めている。

橋梁、高架ではPC連結ゲタ、RCホロー

スラブ、ディヴィダーク、など色々な橋種を採用している。

トンネルでは大部分が在来の鋼製支保工を使用しているが、一部にはNATM工法を採用して施工中である。

また、1カ所で140万 $m^3$ に達する大土工も行っており、泥質変岩の風化帯のため、地下水処理に苦労しているものもある。

東工区である徳山西IC～防府IC間の土木工事は仕上げの段階を迎え、昭和60年度末の開通に向けて、トンネル設備、管理施設などの整備に着手している。

西工区である防府IC～山口IC(中国縦貫道接続)間は、昭和62年度末開通を予定しており、土木工事の最盛期を迎えている。

<見学期> 昭和60～61年度

<連絡先> 建設省山口工事事務所

山陽道担当 中岡専門官  
電話(0835-22-1785)



山陽自動車道(徳山西IC～山口IC)



〈交通〉 山陽新幹線小郡駅または徳山駅を  
経て山陽本線防府駅下車  
車で10分

### ◎ 都市モノレール小倉線 ◎

〈起終点〉 起点 北九州市小倉北区魚町二丁目  
終点 北九州市小倉南区企救丘二丁目

〈事業主体〉北九州市、建設省九州地方建設局  
北九州高速鉄道株式会社

〈工期〉 昭和53年10月～昭和59年6月

〈事業費〉 モノレール事業費 688億円  
（インフラ部 335億円）  
インフラ外部 353億円

〈概要〉都市モノレール小倉線は、昭和47年に施行された「都市モノレールの整備の促進に関する法律」に基づき、支柱、及び桁等のいわゆるインフラストラクチャーを道路の構造の一部として整備していくという画期的な制度の適用第一号を受け、道路交通混雑の緩和とともに、都心と住居地域を結び、安全、正確、快適な“市民の足”となる都市交通機関として導入された大型の跨座型モノレールであり、昭和60年1月9日に開業を始めたものである。

路線は、国鉄小倉駅前の西鉄北九州線と平和通りの交差点を起点とし、約7.1Km南下し、桜橋付近から約1.6Km東進して到達する国鉄日田彦山線付近を終点としている。建設延長8.7Km間には12停留所があり、起点から終点までの営業延長8.4Km間を、約18分間で運行する。

構造物は、軌道と橋梁としての桁が一体となった軌道桁と、これを支える支柱からなり、橋長20mのPC軌道桁とRC支柱を標準構造とし、都心部、及び交差点部では鋼軌道桁を採用している。PC軌道桁は、本線部で573本あり、企救丘総合

基地内に設けられた桁製作ヤードで製作し、トレーラーで運搬後、トラッククレーン2台を用いて架設を行なった。また、鋼軌道桁は、本線部で41橋あり、交通量の多い交差点部等で桁下空間が利用できない箇所では、押し出し工法を採用し、その他の箇所では、トラッククレーンによるステージング工法で架設を行なった。

工事は、まず終点側の志井～企救丘停留場間において、昭和53年10月に着工し、逐次北側の都心部に向って施工され、昭和59年3月末にはインフラ部である軌道構造物の工事を終え、引き続き、インフラ外部である電気、通信、及び信号等の諸施設の工事を6月末に完了した。

〈見学時期〉いつでも可

〈連絡先〉 北九州市建設局土木部街路課  
奥田 尚弘（電話 093-582-2457）

〈交通〉 国鉄鹿兒島本線小倉駅下車



都市モノレール 小倉線

### ◎ 那の津地区上部工（鋼桁）架設工事 ◎

〈実施場所〉 福岡市中央区那の津地内

〈事業主体〉 福岡北九州高速道路公社

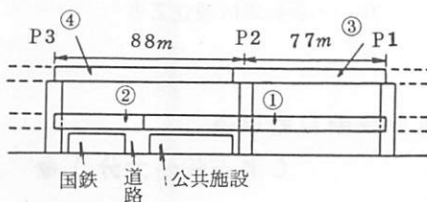
〈工期〉 昭和59年10月～昭和60年10月

〈事業予算〉 約3億円

＜概要＞ 福岡都市高速道路1号線（香椎～豊浜14.8Km）は、現在香椎～築港7.4Kmを供用しているが、本工事箇所は次期供用区間の一部であり、二層式高架構造となっている。

構造型式は2径間連続非合成箱桁（2主桁）で橋長165m、桁高3.15～3.30m、総鋼重量は約1800tである。

架設工法としては、既存公共施設及び国鉄線上空の工事となるため、下図のとおり全体を4ブロックに分け、以下の工法により順次架設する。



①	ブロック	135m	660t
②	"	30m	190t
③	"	81m	420t
④	"	84m	490t

工事報告（福岡、北九州高速道路公社）  
文中の図面

#### ① ブロック・地組横取工法

架設現場の横に借地した用地内で、架設位置に平行に桁を組立て（トラッククレーン・ベント工法）、約25mを自走台車により横取りする。

なお、3箇所設置した横取設備のうち道路端のものは横取完了後も残し、仮受けベントとして、その後の架設（②④）に使用する。

#### ② ブロック・手延による引出工法

P3後方（P4側）に引出用軌条設備を設け、その上に桁及び手延機を組立て、自走台車及び、ウィンチにより引出を行なう。先端ローラーは、①の桁上に置き、台車の盛替は約60mの引出の間に6回程度行なう。

#### ③ ブロック・トラッククレーン・ベント工法

通常のトラッククレーン・ベント工法で行なうが現地状況から2主桁のうち1本は正規の位置に

架設できず、約8m手前で組立てた後橋脚上で横取りを行なう。

#### ④ ブロック・三脚クレーン工法

③の桁上（P2位置）で三脚クレーン（25t吊、25m）を組立て、P3方向に順次桁架設を行なう。三脚クレーンの移動は4回、下層桁上のベントは2箇所を設置する。

＜見学時期＞ 横取りは3月末完了。実際に桁を架設するのは9月中旬迄の予定。いつでも可。

＜連絡先＞ 福岡事務所工事課 宮本 岡  
（電話 092-631-0121）

＜交通＞ 西鉄福岡駅（天神）より車で5分



桁組立状況（地組横取工法）

### ●福岡市臨海土地整備事業●

＜実施場所＞ 福岡市中央区地行地先  
福岡市早良区西新・百道地先  
福岡市西区小戸・姪浜地先

#### ＜事業主体＞

地行・百道地区…………… 福岡市港湾局  
小戸・姪浜地区…………… 博多港開発㈱

#### ＜工期＞

地行・百道地区（昭和57年4月～62年3月）  
小戸・姪浜地区（昭和57年4月～63年3月）

〈工事規模〉

地行・百道地区 (138.3 ha、埋立土量1050万 $m^3$ )

小戸・姪浜地区 (116.5 ha、埋立土量830万 $m^3$ )

〈事業予算〉

地行・百道地区 (690億円)

小戸・姪浜地区 (460億円)

〈概要〉

地行・百道、小戸・姪浜地区埋立工事は、博多港港湾計画に基づく埋立事業総面積940.8haの内、第1期埋立事業として、西部地区2548haを福岡市港湾局及び、第3セクターである博多港開発(株)により埋立てるものである。

造成後の主たる土地利用は、良好な環境で利便性の高い住宅用地を中心とした、道路、公園、学校、下水処理場用地等の都市施設用地を、さらに住宅用地の前面には、市民の新たなレクリエーションの場として延長約2.5kmの人工海浜を計画している。

施工については、埋立地前面に区画漁業権があると共に、背後の住宅地に隣接しているため、海域の水質汚濁、背後地への騒音、振動、粉塵防止対策等の環境保全に十分留意している。現在埋立土量に対する進捗率は約70%程度であり、順調に埋立が進行中である。

〈見学時期〉 いつでも可

〈連絡先〉

福岡市港湾局臨海開発事務所

住所：福岡市早良区西新3丁目1～1

電話：092-(822)2251

〈交通〉

地行・百道地区……………市営地下鉄西新駅下車

小戸・姪浜地区……………西鉄バス姪浜渡船場前下車



小戸・姪浜地区埋立工事

◎九州横断自動車道

(湯布院～大分)◎

〈実施場所〉 大分県湯布院町～大分県大分市

〈事業主体〉 日本道路公団

〈工期〉 昭和48年度～昭和60年代中

〈事業予算〉 約1500億円

〈概要〉 長崎を起点として、鳥栖JCTで九州縦貫自動車道と交差し大分に至る九州横断自動車道のうち終点側の湯布院町、別府市、日出町および大分市の区間、総延長393kmを、日本道路公団大分工事事務所が担当している。

この路線は、湯布院～別府間では由布岳裾野の大きくえぐられたV字谷を横過し、別府～大分間では、高崎山背後の急峻で複雑な山岳を通過しており、九州縦貫自動車道の八代～人吉間にも劣らない山岳道路である。また、当区間は、温泉地を通過するため温泉地下水脈への影響、構造物の酸性地下水および硫化水素に対する耐食性、耐久性の追求など、全国でも数少ない条件がある。

橋梁数は全体で30橋で、大規模な谷、急峻地形のため橋梁規模も大きく、橋脚高62mの冷川橋を始めとして40～50m級の橋脚高を持つ橋梁が連続

する。温泉腐食の懸念される箇所においてはコンクリート橋を主体としており、また、路線が国立公園内あるいはそれに近接して通過しているため景観にも十分配慮し、橋梁型式は、PC連続ラーメン、RC固定アーチ等種々のものが計画されている。

現在、橋梁工事は、湯布院町で鋼連続トラス橋が施工されており、今後早期開通に向け工事の最盛期となる。

〈見学時期〉 今後随時

〈連絡先〉 日本道路公団福岡建設局

構造技術課 八塚課長代理  
(電話092-721-1511)

〈交通〉 国鉄別府駅 湯布院駅より車で。  
(主要地方道別府院内線、県道塚原天間線沿線)



九州横断自動車道 並柳橋

●九州縦貫自動車道 球磨川第二、第三橋●

〈実施場所〉 球磨川第二橋 熊本県八代郡坂本町  
球磨川第三橋 熊本県人吉市

〈事業主体〉 日本道路公団

〈工期〉 球磨川第二橋

昭和59年8月～昭和61年5月

球磨川第三橋

昭和59年7月～昭和61年12月

〈事業予算〉 球磨川第二橋 1320百万円

球磨川第三橋 1810百万円

〈概要〉 九州縦貫自動車道八代～人吉間では川下りで有名な急流・球磨川を横過する三大橋梁のうち球磨川第二橋、球磨川第三橋が現在工事中である。橋梁型式は第二橋がPC3径間連続箱桁(1脚剛結、橋長242m)、第三橋が5径間および6径間のPC多連続ラーメン箱桁(橋長480m)である。河川内の基礎は両橋ともケーソン基礎で、設計、施工は、経済性、工程上全国でも数少ないピア・ケーソンで実施している。

球磨川第二橋は、支間101mの長大支間で、かつ、施工は片持ち架設工法であるため、施工時のたわみ管理、クリープの影響等、設計、施工に十分留意している。現在、工事は下部工を完了し、上部工架設中である。

球磨川第三橋は、支間60mの5径間および支間37mの6径間の橋梁で、施工は5径間部が片持ち架設工法、6径間部が接地支保工による張出し工法で行われている。なお本橋は走行性、維持管理を考慮して伸縮継手、支承を少なくした連続ラーメン型式を採用し、景観にも配慮したスレンダーな橋である。現在、工事は下部工を施工しており、上部工施工は昭和61年1月からとなる。

〈見学時期〉 前記工期中

〈連絡場所〉 日本道路公団福岡建設局

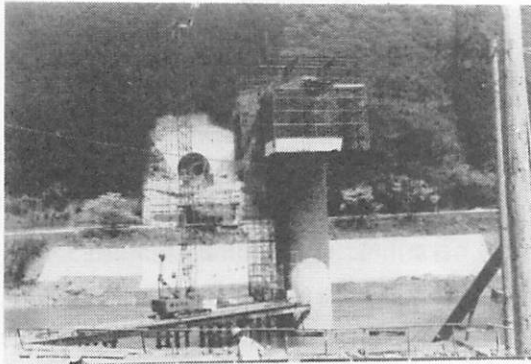
構造技術課 八塚課長代理  
(電話092-721-1511)

〈交通〉 球磨川第二橋

八代市より車で人吉方面へ国道  
219号沿線

球磨川第三橋

人吉市より車で。(城跡付近)



九州縦貫自動車道 球磨川第二橋

アーチ沓の据付は、その後の架設精度に大きく影響するので慎重に対処し、第1パネルをアーチ支承と第1パネルに設けたベント設備で支持し、架設本締を行ない、次に側径間40mを架設し、端部と橋台をタイバックにて連結する。次に順次兩岸より跳出架設し、閉合はタイバックを調整することにより行ない、施工誤差は僅か5mmという精度で施工することが出来た。

〈見学時期〉 いつでも可

〈連絡先〉 宮崎県道路建設課橋梁係長 高松隆一  
(電話 0985-24-1111)

〈交通〉 高千穂線日ノ影駅下車 車で10分

### ● 一般国道218号 青雲橋 ●

〈実施場所〉 宮崎県西臼杵郡日ノ影町

〈事業主体〉 宮崎県

〈工期〉 昭和48年度～59年度

〈事業費〉 39億円(上部工 29億円)

〈概要〉

架設地点の地形は計画高付近で幅300mの大V字谷を形成しているため以下の構造形式となった。

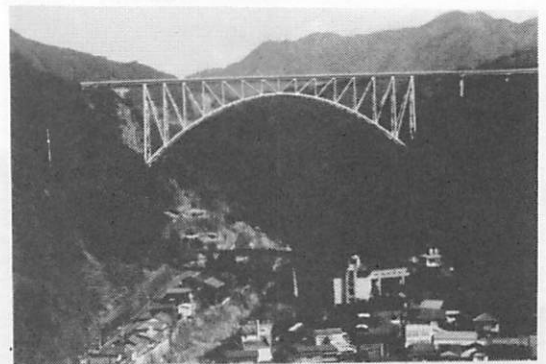
上部工 橋長410m 幅員 12.5m

型式 スパンドレルブレースにアーチ+活荷重合成鋼桁

下部工 橋台 箱型橋台(直接基礎) 2基

アーチ受台(深礎杭) 2基

橋脚 逆T式(深礎杭) 3基



青雲橋

### ● 一般国道326号道路改良工事 ●

〈実施場所〉 宮崎県東臼杵郡北川町熊田～内山  
(延長38.7km)

〈事業主体〉 建設省九州地方建設局

〈事業費〉 587億円

〈概要〉 一般国道326号は宮崎県北川町と大分県犬飼町を結び、一般国道10号を短絡する重要な路線である。建設省佐伯工事事務所では、大分県の24kmの施工を担当している。昭和49

アーチ基礎は柱状節理の発達した崖すい面の直下に位置しているため、橋体に損傷を与えないようロックボルトによる法面保護工を実施した。地質調査の結果から、基礎型式はローム層の厚い右岸側は深礎基礎とし、左岸側は直接基礎とした。アーチ基礎については、反力の大きいこと及び急崖地であるとの理由により、背面岩盤および深礎基礎で分担して支持する構造とした。

年度より、工事に着手し、県施工分 1.8Km、直轄施工分 2.3Km、計 4.1Kmを昭和53年12月供用開始(3工区)、その後昭和58年4月に三国、小木浦トンネル側、2.18Km、と11月に小野市側 0.7Km(2工区終点側)を供用開始、昭和59年4月4工区の 2.6Kmを供用開始した。

その後、毎年継続して工事を施工しているが、今回5工区～7工区間(供用区間延長 2180 mを除く)延長 6080 m区間について紹介する。

設計規格第3種3級設計速度50Km/hであるが、最小曲線半径200m、最大縦断勾配6%と線形に配慮した計画としており、構造物としては橋梁 13箇所、トンネル5箇所を有する山岳地の道路である。

橋梁は地質、地形、平面線形によりP.C、鋼板桁の型式に採用している。トンネルは地質により上部半断面先進堀削工法、及び側壁導坑先進堀削工法の併用工法を採用している。

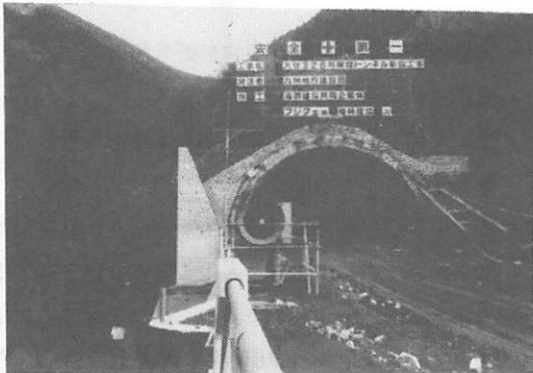
なお、7工区については昭和62年度未供用開始の予定で現在各種構造物の完成の姿が着々と現われている。

<見学時期> いつでも可

<連絡先> 佐伯工事事務所

(電話09722-2-1880)

<交通> 豊肥線三重駅より車で30分



奥畑トンネル

## ◎花瀬大橋◎

<実施場所> 鹿児島県肝属郡田代町

<事業主体> 鹿児島県

<工期> 昭和55年10月～昭和60年2月

<事業予算> 5億8080万円

<概要> 花瀬大橋は、大隅半島の南部、肝属郡田代町に位置し、県道辺塚根占線の道路特殊改良一種事業の関連として、橋梁整備事業により実施された182mの橋梁である。

架橋地点は、大隅南部県立自然公園に指定されている「花瀬峡」にあり、その名のごとく春は桜、夏は藤、秋は紅葉と四季折々の景観をほこり、川巾一面に敷きつまった石畳と相まって、その昔から名勝として知られてきた所である。

橋梁型式は、風光明媚な周囲の景観を重視し、中央支間90mの上路式2ヒンジ鋼アーチ橋が選定された。このアーチ橋は、5径間連続格子4主桁を2つのボックスアーチリブで補剛した構造であり、側径間はアーチ支間に対称にかつ等径間に配置され、その桁高は、中央径間と同じにする等橋の美に留意した設計がなされている。

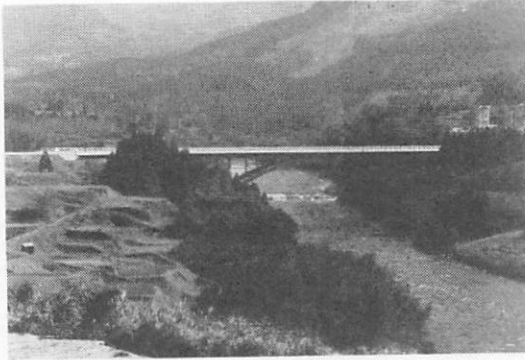
また、親柱や高欄は、町花である藤のレリーフを施して地域に密着した橋造りにも努めている。

当地域は、奥地等産業開発道路に指定され、今後の開発が待たれるところであるが、この花瀬大橋が道路の機能を持つだけでなく、花瀬峡のシンボルとして観光開発の一助になればと願うものである。

<見学時期> いつでも可

<連絡先> 鹿児島県大根占土木事務所工務一課  
(電話09942-2-0561)

<交通> 鹿児島鴨池港より垂水までフェリー  
垂水より鹿児島湾岸沿いに南下し、車で約一時間40分。バスの便もあり。



花瀬大橋

### ● 瀬底大橋 ●

- 〈実施場所〉 沖縄県国頭郡本部町
- 〈事業主体〉 沖縄県
- 〈工期〉 昭和54年11月～60年2月
- 〈事業予算〉 57億円
- 〈概要〉 瀬底大橋は沖縄県の沖縄本島北部の本部半島とその西側700mに浮ぶ瀬成島間に架設された橋長762mの本県初の海狭横断橋である。

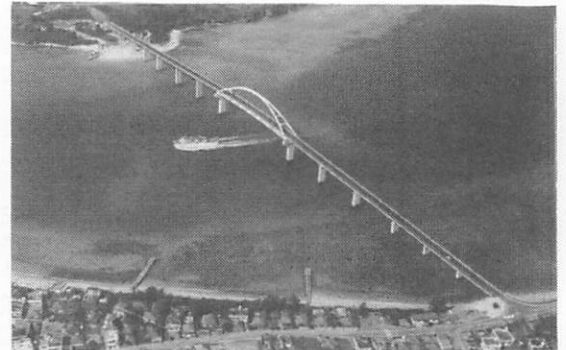
本橋の架橋位置は支持地盤が琉球石灰岩で海上部は-40～-60mと深く、下部工基礎型式は仮締切兼用鋼管矢板基礎、鋼管杭基礎、及び島側の陸上部で直接基礎が採用された。当架橋位置からは海洋博記念公園や伊江島が眺望できる風光明媚なところであり、橋梁型式の選定に当っては航路制限、地盤条件、経済性、美観、線形、構造型等を検討した結果、上部工は主径間が鋼ニールセンローゼ桁、側径間が三径間連続PC箱桁4連、及びPC単純T桁2連とした。架設工法は主径間部が離島航路上に位置し、気象、海象等の条件によって架設時期が限定され短時間のうちに桁架設を完了する必要があり、1300tフローティングクレーンによる大ブロック一括架設とした。側径間部は架設桁によるプレキャストブロックカンチレバー工法が採用され、桁端部は

吊ブロック工法で施工した。本橋は渡海橋であり、腐食環境が厳しいため、塗装は長期防錆形塗装系とし、ケーブルの防錆についても防食テープを巻き、その上に紫外線硬化型FRP被覆を施した。瀬底大橋の開通により、瀬成島は本島と一体となり、離島苦は解消され、地域開発の源動力となるであろう。

〈見学時期〉 いつでも可

〈連絡先〉 沖縄県道路課 石垣橋梁係長  
(電話0988-66-2390)

〈交通〉 那覇市から国道58号を名護まで北上し、更に国道449号で本部町へ(車で那覇から2時間)



瀬底大橋

### ● 樺島大橋 ●

- 〈実施場所〉 長崎県西彼杵郡野母崎町
- 〈事業主体〉 長崎県
- 〈工期〉 昭和53年～昭和61年1月
- 〈事業予算〉 17億6780万円
- 〈概要〉 樺島は、長崎市から南西に延びた野母半島の先端に位置し、人口1200名を有する漁業と水産加工の島である。これまで島民の足は1.5Kmの航路を渡海船に頼る以外になかったため、この架橋により島民の人心の安定、生活環境

の飛躍的な向上、通勤・通学路の確保など、地域発展に大いに貢献するものと期待されている。

架橋地点は樺島水道の真上に位置し、航路幅の確保等の関係で主径間は152mとなり、経済性比較の結果、景観も考慮してランガートラスを採用した。この形式は長崎県では初めての採用であり、ランガートラス橋として本橋は、天草五橋で知られる大矢野橋（156m、熊本県天草郡）や長谷大橋（156m、山口県）、笠戸大橋（152.2m、山口県）と並ぶ屈指の長大橋である。

橋体の架設方法は、航路の確保及び現地工事期間の短縮、工場組立てによる製品品質の向上並びに安全な作業空間の確保等の理由から、起重機船による一括架設工法を採用した。これは、工場で一体に組立てたあと、これを台船に載せ現地まで曳航し、ここで起重機船で吊上げ、自らのウィンチでロープを巻取りながら架橋位置に近づき、架橋位置真上で橋体を徐々に降下させ、橋脚上に据付ける工法である。

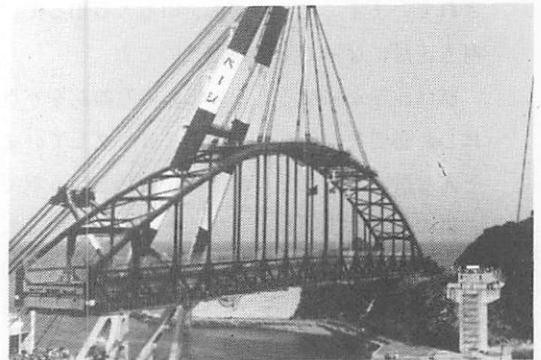
下部構造は、地盤が比較的良好なため直接基礎

で計画していたが、地盤の一部に不良箇所がみられたためオープンケーソン基礎とした。

〈見学時期〉いつでも可（ただし橋体工事は昭和60年10月まで）

〈連絡先〉 長崎県長崎土木事務所改良二係（電話0958-44-2181）または三菱重工業㈱長崎造船所樺島大橋上部工工事作業所（電話0958-93-2457）

〈交通〉 茂里町交通センターから野母方面行長崎バスにて脇岬下車、徒歩5分



樺島大橋

## 《ミニ知識》

### dB について

最近では公害の振動・騒音の値として dB で表現されているが、一般の人にとって、感覚的にピンとこないのが普通である。そこで dB の話を少ししてみよう。

ある基準に対する比の常用対数で表わした尺度を一般にレベルと呼び、単位を dB で表わす。

$$L = 20 \log_{10} \left( \frac{P}{P_0} \right)$$

### 振動の場合

L : 加速度レベル (dB)

$P_0$  : 基準の振動加速度  $10^{-5} m/s^2$

p : 測定された振動加速度の実効値

### 騒音の場合

L : 騒音レベル (dB)

$P_0$  : 基準音圧  $20 \mu Pa (2 \times 10^{-5} N/m^2)$

p : 測定された音圧の実効値

一般には p に人間の振動感覚、聴感感覚の補正值を考慮して振動・騒音を調査している。

この場合、L は次の名称で呼ばれている。

振動 L = 振動レベル (dB)

騒音 L = 騒音レベル dB(A) (ホーン)

次に、2点間の測定値のレベル差 (dB 差) の関係を下表に示す。

レベル差 (dB) (A-B)	6	10	12	14	16	18	20	40
Bに対するAの倍率	2	3	4	5	6	8	10	100



## 切手は小窓、心の小窓

宮越 堯

(パシフィックコンサルタント株福岡支社次長)

### ☆ 小窓からの投げ文

土木学会誌1984年11月号のマンズリートピックスに“土木構造物と記念切手”と題したコラムが掲載されています。と言っても、知る人ぞ知るで、私自身も正月になって気付いたものです。

私は、年末になるとその年の専門雑誌をバラバラにし、必要な部分だけをファイリングしています。そんな折、このコラムが目止ったという訳です。

世の中には、同じようなことを考えている人がいるものだなあ。私どもの会社が30周年記念行事で、記念品として企画した“切手でみる建設プロジェクト”のパンフレットを送ってみよう……。どこの誰れかは知らないけれど……東京の人なら会う機会もそのうちにあるだろう。こっちは東京から福岡に来た博チョン大学低学年生。

そんな気安さで私の心の小窓が開き、土木学会気付でパンフレットを同封した投げ文となったのです。

女性の方だったら、もっともっと胸が膨らんだのに残念。そのときは、こんなことも思い巡らしておりました。

そして、時はいつの間にか投げ文のことも頭の中から忘れさせてくれていたのです。

### ☆ 小つぶで大きな役割

切手になった建設プロジェクトの数は多く、その役割は小つぶながら大変大きいものです。

浅い人生経験ながら、私はこの切手にずいぶんと

お世話になってきました。その一端を紹介します。

海外旅行は、さほどもめずらしいことではなくなりました。しかし、いざ自分となると不安もでてきます。まず、例の税関でのチェックです。

友人から、あそこをうまく通り抜けるコツは、その国の言葉であいさつをするのがよい。あるいは、とにかく何も言わないで無言の方がよい……など、いろいろ聞かされたものです。

実際は、相手は非常に忙しく、たかが私一人のために時間をかけている暇はありません。ほとんどは無言の素通りになっていることでしょう。

そんな中で、逆に税関のオジサンやオネエサンに“ほのぼののパスポート”を見せてやろうと思い、日本を代表的に表現した切手を数枚入れて出したのです。それは1951年発行の国旗“日の丸”をデザインした平和条約の切手と、毎年4月20日に発行される切手趣味週間の歌麿や清長の美人画などです。

おっ、日本から来たのか。この美人はyouの奥さんか、言葉は分からないにしても、そんな表情がいきいきと伝わってきます。何んだか、もうその国の人と友人になった気分になるのですから、いいものです。

ところで、もうひとつ、外国人と切手の縁でこんなことがありました。

彼は鉄道を専門とするコンサルティングエンジニアで英国人のMr.ヒギン。もう一人はサウジアラビアのMr.アルヒジで土木技師。

あるプロジェクトと一緒に仕事をし、いよいよ帰国することになりました。その時、私が彼等が日本で生活した最後の1年間に発行された記念切手をプレゼントしたのです。

クリアファイルに、千代紙を台紙としてつくった切手アルバムです。まさに日本の小窓、開けた瞬間ナイス!!ビューティフル!!

世界に通じる切手、そして忘れることのできない記念日、国家が安定して存在すればこそ、発行できる切手です。

Mr. アルヒジは、サウジに帰ってこのプロジェクトが完成したら、ぜひ切手にしようと目を輝かせて帰国したのです。そして数カ月後、アメリカから送られてきた郵便はMr. ヒギンからのものでした。

その中に合衆国50州の州切手が同封されていたのです。日本もそのうちに県別の切手が発行されるようになるかも知れませんね。そうなったら福岡県はどんなデザインになることでしょうか。楽しみです。

ところで、いままでに発行された切手で、九州に関係するものを地図に当てはめてみたら、面白いことがいろいろ出てくると思いますが、いかがでしょうか。九州橋梁・構造工学研究会ならずとも九州には、1962・9・26 若戸大橋、1966・9・24 天草架橋、1973・11・14 関門橋と、橋梁に関する切手が全て九州のものばかりです。この6月8日に開通する大鳴門橋がありますが、長大橋の発生地は九州。トンネルだって1958・3・9の関門トンネルがあります。

さらに伝統的工芸切手に、いま流行の言葉ならセラミックと呼ばれる伊万里・有田焼がデザインされ、5月23日に発行されます。古いものが残っていくということは、そのものが常に新しいものを持っているということの裏返しです。

世界に通じる切手、そこにデザインされる形となったもの。そのバックに技術があり、人がいるということの証しです。



若戸大橋 1962.9.26  
Completion of Wakato Bridge



天草架橋完成 1966.9.24  
Completion of the Amakusa Bridges



関門橋開通 1973.11.14  
Opening of Kanmon Bridge

☒ 記念品としての日本の歌シリーズ切手集

私どもの会社では、30周年記念の記念品に“日本の歌シリーズ切手”のアルバムをつくりました。

このシリーズ切手は、1979・8・24の“荒城の月”から1981・3・10の“花”までの9回18種類です。

海外で仕事をしている仲間も、お世話になっている方へ記念品としてプレゼントできる、しかも日本を代表するもの……そう思って考えたのがこのアルバムだったので。

子供の心になろう。歌なら万国に通じ、切手はなおさら、その美しさ、そして安さ。

日本語の詩を英語に翻訳したものがあれば、それ

## ◇ほのぼの随筆

と一緒に印刷したら、こんなに楽しいことはない。

この提案が受け入れられて、いよいよ編集にとりかかったのです。

東京の中央郵便局に行って、この歌シリーズ切手をまとめ買いするお願いから始まったのです。

理由を説明すると、郵便局側は心よく応じてくれて、まずは好調なスタート。ところが、詩の英語訳を探し出すのがひと苦労です。

近所の切手専門店にお願いして、“JAPANESE PHYLATERY” という本を借り、そこに掲載される翻訳文を使わせてもらうことにしたのです。これなら全世界に通用する言葉であり、メロディーともマッチし唄いやすいだろうと考えたからです。

そうは言っても、この本が発行されるのが月1回。そこに掲載される歌シリーズは1回分の2点だけ。30周年記念行事の日程は決まっているし、段取があり、スケジュールの調整が大変。そして、やっと台紙を印刷して間もなくのことです。どうもメロディーや詩には著作権があるのだから権利侵害にならないように配慮をもらう手続が必要ではないか、と、いうことが発生してきたのです。

さっそく、著作権協会に足を運ぶと、やはり思っていたとおり、切手に楽譜と詩の一部が印刷されており、詩を全部台紙に印刷していることと併わせて、手続が必要だったのです。わずかに数千円のこと、後味の悪い思い出となる場所でありました。

その配慮は、日本音楽著作権協会 8111604 号

### ☆ 通じた投げ文

この原稿を書くことになったのは、冒頭の土木学会に投げ文したことに端を発しています。あれから2ヶ月ほど過ぎた3月20日のことです。

私のデスクの上に“九州大学ウノさんから電話がありました”とのメモが置いてあります。さっぱり見当が付きません。

恐る恐る電話をしてみると、これがなんと、例のコラムの著者“鳥野先生”だったのです。

コラムリストは、東京の人だろうぐらいしか思っていないなかっただけに、お互いビックリ。さっそくお会いして心の小窓から握手です。

切手は誰れが名付けたか知りませんが、手を切るとも解釈できます。しかし、舌の先でぬらし、手でトントントンとたたきポストへ手離すところからきているものとも解釈できます。切手がとりもつ縁、ほのぼのとしたもののが伝わるもの、せめて記念切手で交信したいものです。

さて、原稿の締切り日が今日です。やっと書き終って、封書に宛名書き、貼る切手は昨日4月20日発行の切手趣味週間：女十題：竹久夢二の「朝の光へ」です。朝の光に輝やく“KABSE”……幸多かれ。

### 切手趣味週間 女十題





**Q** 耐候性鋼の特徴と使用上注意すべきことがあればお教え下さい。

**A** 耐候性鋼の技術が米国から日本に入って20年以上が過ぎ、耐候性鋼の名前を知らない人でも駅舎や銀行建築などの黒やチョコレート色をした外壁やサッシですっかりお馴染みとなっています。耐候性鋼は、鋼材の表面に緻密で密着性の良い安定錆が1～5年で生成し、錆層自体が保護膜となって腐食を防ぐために、無塗装構造物とすることが出来ま

す。鉄の弱点であった錆びるという点を逆に利用して、メンテナンスフリーを可能としたものです。

全くの裸使用では安定錆の出来る迄の間は、流出錆(錆汁)が発生します。従って、美観を重視する場合や人が直接に手を触れる所では、流出錆を抑えながら安定錆を生成させるために、ウェザーコート処理と呼ばれる被膜処理を施す必要があります。これは塗装ではなく最終的には被膜が安定錆におきかわるために再処理の必要はありません。

この耐候性鋼も決して万能という訳ではなく、多湿な状態や、海岸付近では、安定錆が生成しにくいので構造物の立地場所の大気環境を十分に把握する必要があります。また、設計の際にも、水の滞留しないディテールとすることに留意しなければなりません。これらの配慮を怠らなければ、仮にウェザーコート処理を実施した場合でも、長期的には塗装した普通鋼より経済的となります。

**Q** アルカリ骨材反応とそれをおこす骨材などについて知っておきたいのですが？

**A** アルカリ骨材反応とは、一般に、或る種の骨材に含まれる特殊な鉱物がコンクリート間隙中に溶出してくるアルカリと反応して、骨材の周囲に珪酸アルカリの層をつくることをいいます。この層がコンクリート中の水を吸収して膨張し、ポップアウトや亀甲状・地図状のひびわれ等が発生させます。骨材周囲には黒色、灰色等の反応リムが生じ、白華状の白色ゲルがコンクリート表面に浸み出すこともあります。ここで注意すべきは、アルカリとは $\text{Ca}(\text{OH})_2$ ではなく、 $\text{Na}$ や $\text{K}$ のアルカリであるこ

とです。米国では反応性骨材を使用しなければならない場合、セメントとして、 $\text{Na}_2\text{O}$ 換算で0.6%以下の含有量のものを使用することを推奨しています。

アルカリ骨材反応の可能性のある鉱物としてはオパール、玉ずい、リン珪石、クリストバライト、火山性ガラス、ある種の沸石・千枚岩などがあげられており、それらを含む可能性のある岩石には流紋石、安山岩、それらからなる堆積岩・変成岩、チャート等の名があがっております。しかしながら大切なことは、それらの岩石中に必ず反応性鉱物が含まれているわけではないということです。

反応性骨材の試験法にはASTMの方法がありますが、良否の判定が分るには長時間を要す様です。

# 会務報告

## 〔第2回総会〕

- ・日 時：昭和59年6月15日（金）午後2時
- ・場 所：福岡市東区馬出3-1-1  
九州大学同窓会館
- ・出 者：108名（ただし、懇親会92名）
- ・議 題：(1)昭和58年度事業経過報告  
(2)昭和58年度収支決算報告  
(3)昭和59年度事業計画（案）  
(4)昭和59年度予算（案）  
(5)会則改正（案）

## 〔理 事 会〕

- と き：昭和59年6月15日（金）
- 場 所：福岡市東区馬出3-1-1  
九州大学同窓会館会議室
- 出席者：小坪清真・三池亮次・太田俊昭  
田中美三・青木謙三・筒井寅吉  
水田権作・吉開正文・瀬戸弘海（代理）  
中西茂雄
- 議題：1. 会長小坪清真、副会長三池亮次を選任  
2. 会長が運営委員長に理事の中から  
太田俊昭を選任  
3. 調査研究活動を行なう分科会規定の設  
定  
4. その他

## 〔運営委員会〕

- 第1回 昭和59年4月14日
- 出席者：25名
- 議 題：1. 昭和58年度決算報告審議  
2. KABSE会則改正（案）について  
3. 昭和59年度活動内容について

- 4. 昭和59年度予算案について
- 5. その他

### ○第2回 昭和59年6月2日

- 出席者：13名（福岡市在住委員のみ）
- 議 題：1. 総会、講演会、懇親会及び理事会  
の運営について  
2. 分科会規定（案）及びテーマ募集  
について  
3. 59年度運営委員会活動について  
4. その他

### ○第3回 昭和59年7月14日

- 出席者：14名
- 議 題：1. 会報のあり方について  
2. 分科会活動、事業部活動について  
3. その他

### ○第4回 昭和59年9月22日

- 出席者：23名
- 議 題：1. 事業部講習会（マイコンによる有  
限要素解析）について  
2. 講演会・見学会について  
3. 分科会活動について  
申請テーマ6件のうち5件につ  
いて運営委員会（案）を決定  
4. その他

### ○第5回 昭和59年11月10日

- 出席者：10名（幹事のみ）
- 議 題：1. 講習会、講演会、見学会活動につ  
いて  
2. 会報編集、論文集発行について  
3. 分科会活動についての理事会報告  
4. その他

### ○第6回 昭和60年2月23日

- 出席者：18名
- 議 題：1. 講演会報告について  
2. 会報編集、研究連絡、論文編集に  
ついて

3. 昭和59年度運営委員会のあり方について反省・討議

4. その他

運営委員会の場所はオリエンタルコンクリート㈱福岡支店の会議室で開催いたしました。

(太田 俊昭)

〔事業部見学会小委員会〕

九州地方におきましても、いくつかの興味ある建設工事が行なわれており、当小委員会でも検討して参りましたが、日程その他の事情のため、昭和59年度中には、見学会を開催することができませんでした。

昭和60年度は、第1回の見学会として、別途御案内しておりますとおり、九州電力天山揚水発電所の見学を予定しております。天山発電所建設については講演会でも発表が行なわれますので、聴講いただければ十分な予備知識をもって有意義な見学ができることと考えます。多数の会員の御参加をお待ちしております。

なお、当小委員会では、会員の皆様の興味に沿った見学会を計画いたしたいと思っておりますので、見学希望あるいは見学を推薦したいと御考えの方がございましたら、小委員会委員まで御知らせ下さるようお願いいたします。

(角 知恵)

〔事業部講演会小委員会〕

本委員会では、講演会開催に対する会員の皆様の要望が大きいため、創刊号の会務報告にもありますように、1年間に2回の講演会を開催することを目標にして努力してまいりました。

しかしながら、本委員会の委員も不慣れなこともあり、企画運営が拙く、残念ながら、昭和59年度に

おきましては、この会報の第2回総会報告の中に示しました講演会のみとなってしまいました。悪くならず御了承の程お願いします。

昭和60年度には、2回の講演会を開催すべく、委員一同頑張ります。会員の皆様には、希望される講演企画でもありましたら、是非、本委員会委員宛に御連絡頂きますようお願いいたします。

なお、昭和60年度の特別講演会は、昭和60年6月14日(金)に開かれる総会に引き続いて、同会場で下記の通り開催いたします。今回も、土木学会西部支部との共催です。多数の御参加をお願いいたします。

○昭和60年度特別講演会

「土木構造物の調査・設計・施工に関する講演会」

日時：昭和60年6月14日 14:30~17:00

場所：九州大学同窓会館

講演題目および講演者

・長野県西部地震の調査と大規模土砂崩壊のメカニズム考

長崎大学土木工学科助教授

後藤恵之輔氏

・福岡都市高速道路鋼斜張橋

—荒津大橋の概要—

福岡北九州高速道路公社福岡事務所長

野村利治氏

・天山揚水発電所の工事について

九州電力㈱天山発電所建設所次長

藤本 順一氏

(松下 博通)

〔事業部講習会小委員会〕

本委員会で計画実施いたしました、講習会については本会報の「活動報告—マイコンによる有限要素解析—」の中で詳しく報告しております。今年度に

おきましては、参加申込者が定員をオーバーし、会員の皆様には御迷惑をおかけいたしました。今回の講習会の反省点を改善し、新しい形式で昭和60年度におきましても開催する予定にしておりますので、会員皆様の参加をお願いいたします。

(大和 竹史)

### 〔研究連絡小委員会〕

会則第4条により本会の事業として土木構造全般に関する各種調査研究を行うために、分科会を設置できることになっています。当小委員会は分科会の構成・活動等に関する調整を行い、各年度の分科会活動計画・予算をとりまとめて運営委員会、理事会に付議することを任務とするもので、昭和59年度の活動は次の通りです。

1. 会則第19条2項に定める分科会規定の原案を作成し、運営委員会の審議を経て、昭和59年6月15日の理事会で承認を得ました。
2. 分科会登録申請用紙の書式を定め、印刷しました。この用紙は事務局に用意してありますので、御一報あり次第郵送致します。
3. 昭和59年に発足する分科会のテーマを、59年8月31日を期限として全会員から募集しました。応募された8件について当小委員会で調整を行い、最終的には59年9月22日の運営委員会で次の5件に絞って理事会の承認を得ました。

- (1) 斜張橋の設計と施工 翻訳分科会
- (2) 長大斜張橋の開発に関する分科会
- (3) 各種土木構造物・地盤の振動・耐震に関する研究分科会
- (4) 道路橋の限界状態設計法分科会
- (5) コンクリートの耐久性分科会

これら5つの分科会の昭和59年度活動内容は、本会報に別途報告されていますので御参照下さい。

4. 昭和60年度に新たに発足する分科会のテーマ

を、60年2月15日を期限として全会員から募集し、2件の応募を得ました。これについては、前年度から継続予定の4件と合わせて調整を行い、昭和60年度理事会の承認を得ることになっています。

(彦坂 熙)

### 〔論文編集小委員会〕

昨年度は、以下の手順で論文集発行の準備を行ないました。まず、論文集の編集・発行の方針を検討し、これについて全会員の御意見をうかがいました。次に、その結果をふまえて投稿要領を作り、本年度中に論文集を発行するかどうかと合わせて、運営委員会で検討しました。その結果、別個送付予定の投稿要領で原稿を募り、今年の12月上旬、創刊号を発行することになりました。

多数の投稿をお願いいたします。

(吉村 健)

### 〔会報編集小委員会〕

活動の概略は編集後記に書かせて頂きました。2回目の仕事でしたが、まだまだ不備な所がある様です。ご意見、ご批判がございましたら、後記の編集委員または事務局までご連絡下さいますようお願い致します。

(出光 隆)

### 〔事務局報告〕

昭和59年度は、総会・講演会・理事会・運営委員会(6回開催)・講習会・分科会活動と、2年目として充実した九州橋梁・構造工学研究会であったと思います。

事務局には専任の事務員がいるわけではないので、会員各位にいろいろ不手際を与え恐縮いたしております。

会を運営するには、適正な支出に努めるのは当然ですが、やはり会員からの会費納入が大変気になります。59年度は、1種会員については会員増で収入が伸びましたが、2種会員は収入見込みを下まわり残念です。でも、寄付金として5万円を出していただいた鉄構メーカーもあり有難とうございました。

なお、現会員数は、1種会員240人、2種会員114社116口(1口3万円)となっております。

研究成果が、いろんな形で出てきています。会員各位におかれましては、会員の拡大充実に努めていただくよう宜しくお願いいたします。

(藤井 利治)

昭和59年度収支決算報告(案)

収 入 額 6,310,192円  
 支 出 額 3,491,846円  
 決 算 額 2,818,346円

(収 入)

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	比較(△:減)	備 考
58年度繰越金	2,229,649	2,229,649	0	
正会員(第1種)会費	225,000	263,000	38,000	263名分
正会員(第2種)会費	3,390,000	3,330,000	△60,000	109社 110口
懇親会参加費	300,000	268,000	△32,000	67名分
講習会参加費	0	97,000	97,000	72名分
寄 付 金	0	50,000	50,000	
雑 収 入	15,351	72,543	57,192	預金利子
合 計	6,160,000	6,310,192	150,192	

(支 出)

(単位：円)

項 目	予 算 額			決 算 額	比 較	備 考
	当初予算額	流用増減	予算現額			
事 業 費	総 会 費	200,000	△10,000	190,000	178,180	11,820
	懇 親 会 費	400,000	10,000	410,000	401,550	8,450
	講演会・見学会・講習会費	700,000	0	700,000	353,288	346,712
	調査、研究活動費	1,450,000	0	1,450,000	1,172,220	277,780
	会報、会員名簿発行費	250,000	150,000	400,000	356,150	43,850
	論 文 集 発 行 費	300,000	0	300,000	0	300,000
	小 計	3,300,000	150,000	3,450,000	2,461,388	988,612
事 務 費	手 数 料	18,020	0	18,020	17,480	540
	通 信 費	200,000	0	200,000	124,030	75,970
	事 務 用 品 費	50,000	0	50,000	44,060	5,940
	印 刷 費	50,000	10,000	60,000	50,900	9,100
	旅 費・交 通 費	100,000	0	100,000	88,052	11,948
	会 議 費	400,000	10,000	410,000	402,356	7,644
	人 件 費	500,000	0	500,000	303,580	196,420
雑 費	41,980	△20,000	21,980	0	21,980	
小 計	1,360,000	0	1,360,000	1,030,458	329,542	
予 備 費	1,500,000	△150,000	1,350,000	0	1,350,000	
合 計	6,160,000	0	6,160,000	3,491,846	2,668,154	

※ 決算剰余金2,818,346円については昭和60年度へ繰越



# 九州橋梁・構造工学研究会会則

## 第 1 章 総 則

(名 称)

第 1 条 この会は、九州橋梁・構造工学研究会(以下、「**本会**」という)と称する。

(所在地)

第 2 条 本会は、事務局を福岡市内に置く。

## 第 2 章 目的および事業

(目 的)

第 3 条 本会は、土木構造全般に関する諸問題を会員の専門もしくは職場にとらわれず、自由な立場で討議し、調査・研究・開発に参加あるいは協力することにより、会員相互の技術知識の向上と親睦を図り、土木工学の発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するため、下記の事業を行う。

- (1) 土木構造全般に関する各種調査研究
- (2) 講演会、講習会、見学会の開催
- (3) 土木構造全般に関する試験・指導の受託および意見具申
- (4) 会報その他刊行物の発行
- (5) そのほか、本会の目的達成に必要な事業

## 第 3 章 会 員

(会員の種別)

第 5 条 本会の会員は、次の3種とする。

- (1) 正会員(第1種) : 本会の各種事業の主体となって活動する者。
- (2) 正会員(第2種) : 本会の目的および事業に賛同し、本会を援助する団体に属する本会に対する代表者。
- (3) 特別会員 : 本会の活動を支持する者で、本会の事業遂行の必要上理事会において推薦、承認された者。

(正会員の入退会および義務)

- 第 6 条 正会員になるには、入会届を提出して会長の承認を経なければならない。
2. 正会員は、第 15 条に定める会費を納めなければならない。
  3. 正会員で退会しようとする者は、前項の義務を完了した後、退会届を提出しなければならない。

#### 第 4 章 役員、顧問および相談役

(役員の種類)

- 第 7 条 本会に次の役員を置く。
- (1) 会 長 1 名
  - (2) 副会長 1 名
  - (3) 理 事 若干名
  - (4) 監 事 2 名

(役員を選出)

- 第 8 条 理事および監事は、会員の中から総会において選出する。
2. 会長および副会長は、理事の互選により選任する。
  3. 役員に欠員を生じたときは、前項の規定を準用して補欠を選任する。

(役員職務)

- 第 9 条 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
  3. 理事は会長、副会長を補佐し、理事会において第 13 条に定める事項を審議する。
  4. 監事は本会の会計および事務を監査し、また理事会に出席して意見を述べることができる。ただし、表決には加わらない。

(役員任期)

- 第 10 条 役員任期は 2 年とする。ただし、再任することを妨げない。
2. 第 8 条第 3 項により補選された役員任期は、前任者の残任期間とする。

(顧問および相談役)

- 第 11 条 本会に顧問および相談役をおくことができる。顧問および相談役は理事会の議を経て会長が委嘱する。
2. 顧問および相談役は会長の諮問に応じ、また理事会に出席して意見を述べることができる。ただし、表決に加わらない。

## 第 5 章 総会および理事会

### ( 総 会 )

- 第 1 2 条 総会は毎年 1 回開催する。ただし、必要に応じて臨時総会を開催することができる。
2. 総会は会長が召集し、その議長となる。
  3. 総会は次の事項を審議し、出席会員の過半数で決定する。可否同数のときは、議長が決する。
    - (1) 事業報告
    - (2) 収支決算および会計監査報告
    - (3) 事業計画および収支予算
    - (4) 会則の制定および改廃
    - (5) 理事および監事の選出
    - (6) その他、会長が必要と認めた会務運営に関する重要事項

### ( 理事会 )

- 第 1 3 条 理事会は会長が必要に応じて召集し、その議長となる。
2. 理事会は、理事現在数の過半数をもって成立する。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示したものは、出席者とみなす。
  3. 理事会は次の事項を審議し、出席者の過半数で決定する。可否同数のときは議長が決する。
    - (1) 総会提出議案
    - (2) 総会より委任を受けた事項
    - (3) その他、会長が必要と認めた会務運営に関する重要事項

## 第 6 章 会 計

### ( 経 費 )

- 第 1 4 条 本会の経費は、会費、寄付金およびその他の収入をもって充てる。

### ( 会 費 )

- 第 1 5 条 会費は、会員の種別に応じて、次のとおりとする。
- (1) 正会員(第 1 種) 年額 1.000 円
  - (2) 正会員(第 2 種) 年額 1 口 30.000 円

### ( 会計年度 )

- 第 1 6 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日をもって終る。

## 第 7 章 運営委員会および分科会

### (運営委員会の設置および構成)

第 17 条 本会の会務を処理し事業を推進するため、運営委員会を置く。

2. 運営委員会の委員長(以下「委員長」という)は、理事の中から会長が選任する。
3. 運営委員会の委員は、会員の中から若干名を委員長が委嘱する。
4. 委員長および委員の任期は 2 年とする。ただし、再任は妨げない。

### (運営委員会の活動)

第 18 条 運営委員会は、必要に応じて委員長が召集する。

2. 運営委員会は、理事会および総会に付議する事項の立案、第 4 条の事業の実行、その他会長が必要と認めた会務処理に当たるものとする。

### (分科会)

第 19 条 運営委員会は、第 4 条(1)の事業の実行のため、理事会の承認を経て分科会を置くことができる。

2. 分科会の構成および活動等は、分科会規定に基づいて行う。

## 第 8 章 補 則

### (会則の変更)

第 20 条 本会則の変更は、総会の議決による。

### (規定の決定)

第 21 条 本会則に基づく規定は、理事会において決定する。

## 第 9 章 付 則

1. 本会則の改正に伴う切替措置として、次の通り扱う。

- (1) 本会則に基づく役員が選出されるまでの期間は、本会則改正前の役員が職務を行う。
- (2) 本会則に基づく運営委員会の委員長が選任され、同委員会の委員が委嘱されるまでの期間は本会則改正前の委員長および委員が職務を行う。

2. この会則は、昭和 58 年 11 月 11 日から施行する。

付 則(昭和 59 年 6 月 15 日総会議決)

この変更会則は、昭和 59 年 6 月 19 日から施行する。

## 分 科 会 規 定

### ( 総 則 )

第 1 条 この規定は、九州橋梁・構造工学研究会会則第 19 条に基づき、調査研究活動を行う分科会の基準について定める。

### ( 設置または廃止 )

第 2 条 分科会の設置にあたっては、その目的、事業、存続期間、必要経費、委員構成等について、運営委員会がとりまとめ、理事会において承認をうける。  
分科会は、その目的を達成したときに、理事会の承認を経て廃止する。

### ( 構 成 )

第 3 条 分科会の委員は、会員およびその目的に沿った学識経験者および関係者とする。  
(2) 分科会には主査を置く。必要に応じて副主査および幹事等を置くことができる。  
主査は、複数の分科会の主査を兼ねることはできない。ただし、委員として加わることはできる。

### ( 委 嘱 )

第 4 条 主査は、理事会の承認を経て会長が委嘱する。また、委員は原則として、主査の推薦によって、運営委員長が委嘱する。

### ( 任 期 )

第 5 条 委員の任期は、その分科会の存続期間とする。

### ( 開 催 )

第 6 条 分科会は、主査が招集する。

### ( 成果の報告 )

第 7 条 分科会は、その事業の成果を得たときは、運営委員会がとりまとめ、理事会に報告し原則として会員に公表するものとする。

### ( 事業計画および予算 )

第 8 条 主査は、毎年 3 月中に翌年度の事業計画および予算を、運営委員会を通じて理事会に提出しなければならない。

### ( 経 費 等 )

第 9 条 分科会の運営に必要な経費等は、分科会の予算の範囲内で、支出する。

### ( 事業報告 )

第 10 条 主査は、毎年 4 月上旬までに、前年度の事業経過の概要を運営委員会を通じて理事会に報告しなければならない。

### 付 則

#### ( 施行期日 )

(1) この規定は、昭和 59 年 6 月 15 日から施行する。

役員  
運営委員会委員

名簿

(昭和60年4月30日現在)



**KABSE**

Kyushu Association for  
Bridge and Structural  
Engineering

九州橋梁・構造工学研究会



## 九州橋梁・構造工学会役員名簿

昭和59年6月15日現在（順不同）

役員名	氏名	機関名・役職名
会長	小坪 清真	九州大学教授
副会長	三池 亮次	熊本大学教授
運営委員長	太田 俊昭	九州大学教授
理事	山本 茂樹	建設省九州地方建設局企画部長
"	田中 美三	福岡県土木部長
"	青木 謙三	九州電力㈱常務取締役
"	筒井 寅吉	博多港開発㈱代表取締役副社長
"	甲斐 栄一	西松建設㈱常務取締役九州支店長
"	水田 権作	富士ピー・エス・コンクリート㈱専務取締役福岡支店長
"	西山 徹	日本橋梁建設協会専務理事
"	吉開 正文	第一復権㈱副社長
顧問	村上 正	九州大学名誉教授
"	吉村 虎藏	有明工業高等専門学校校長
"	西原 巧	建設省九州地方建設局局长
"	奥山 文雄	運輸省第4港湾建設局局长
"	大石 理	日本国有鉄道下関工事事務局長
"	今村 浩三	日本道路公団福岡建設局局长
"	吉田 元秀	" 福岡管理局局長
"	江口 淳一郎	佐賀県土木部長
"	松山 完	長崎県 "



役員名	氏名	機関名・役職名
顧問	三原節郎	熊本県土木部長
"	馬場順造	大分県 "
"	松本茂男	宮崎県 "
"	大宇照一	鹿児島県 "
"	和田裕之	福岡市助役
"	高牟礼昭夫	北九州市都市計画局長
"	佐藤幸甫	福岡北九州高速道路公社理事長
相談役	川井優	建設省九州地方建設局道路部長
"	喜田健一郎	運輸省第4港湾局建設次長
"	寺阪勝	福岡県企業管理者
"	内田勝士	" 土木部道路建設課長
"	吉田實	福岡市土木局長
"	森俊一	北九州市建設局長
"	緒方義幸	日本国有鉄道九州総局次長
"	桜庭晃	日本道路公団福岡建設局建設第1部長
"	日高成男	" " 建設第2部長
"	長野英雄	" 福岡管理局技術部長
"	高橋信夫	本州四国連絡橋公団第3建設局長
"	鍋山晃	福岡北九州高速道路公社理事
"	川端一男	"

## 九州橋梁・構造工学研究会運営委員会委員名簿

昭和60年4月現在(順不同)

役員名	氏名	機関名・役職名	連絡住所	電話番号
運営委員長	太田 俊昭	九州大学工学部教授 土木工学科	〒812 福岡市東区箱崎6-10-1	092-641-1101 (内 5180)
副委員長 会報編集幹事	出光 隆	九州工業大学助教授 開発土木工学科	〒804 北九州市戸畑区仙水町1-1	093-871-1931 (内 275)
副委員長 事務局幹事	石井 聖治	福岡市土木局道路部 道路計画課長	〒810 福岡市中央区天神1丁目10-1	092-711-4461
論文編集幹事	吉村 健	九州産業大学工学部 助教授 土木工学科	〒813 福岡市東区松香台2丁目327	092-681-1831 (内 473)
" "	後藤 恵之輔	長崎大学工学部助教授 土木工学科	〒852 長崎市文教町1-14	0958-47-1111 (内 2712)
" "	崎元 達郎	熊本大学工学部教授 土木工学科	〒860 熊本市黒髪2-39-1	0963-44-2111
" 委員	黒木 健実	福岡大学工学部教授 土木工学科	〒814-01 福岡市城南区七隈8-19-1	092-871-6631
" "	中沢 隆雄	宮崎大学工学部助教授 土木工学科	〒880 宮崎市霧島1丁目1-1	0985-26-3155 (内 243)
会報編集幹事	日野 伸一	山口大学工学部助教授 土木工学科	〒755 宇部市常磐台	0836-31-5100 (内 252)
" "	烏野 清	九州大学工学部助教授 土木工学科	〒812 福岡市東区箱崎6-10-1	092-641-1101 (内 5185)
" 委員	高 泰久	九地建企画部 企画課長補佐	〒812 福岡市博多区博多駅前2の10の7	092-471-6331 (内 512)
" "	小西 范男	鹿島建設(株)九州支店 土木部設計課長	〒812 福岡市博多区 博多駅前3丁目12-10	092-441-0211
" "	町田 健夫	新日本製鉄(株)福岡営業所 橋梁工事室掛長	〒812 福岡市博多区 博多駅前3丁目2-1	092-471-2072
事業部 見学会幹事	石山 范	第4港湾博多港工事 事務所所長	〒812 福岡市東区東浜2丁目2-36	092-651-9367
" " "	河野 秀治	富士ピーエスコンクリート (株)福岡支店設計課	〒810 福岡市中央区天神2丁目12-1	092-721-3484
" " 委員	角 和憲	九州大学工学部助教授 土木工学科	〒812 福岡市東区箱崎6-10-1	092-641-1101 (内 5195)
" " "	峰 嘉彦	横河橋梁製作所福岡営業所 (大阪支店橋梁課長補佐)	〒812 福岡市博多区博多駅前2丁目 2-1 福岡センタービル	092-431-6187 大阪 0722-41-1141

役員名	氏名	機関名・役職名	連絡住所	電話番号
事業部 講演会幹事	松下 博通	九州大学工学部講師 土木工学科	〒812 福岡市東区箱崎6-10-1	092-641-1101 (内 5190)
" " "	稲寺 隆	九地建道路部 道路計画第2課長	〒812 福岡市博多区博多駅東2-10-7	092-471-6331 (内 431)
" " "	小深田信昭	オリエンタルコンクリート(株) 福岡支店工務部技術課長	〒810 福岡市中央区 天神4丁目1-18 サンビル	092-761-6931
" " 委員	奥田 尚弘	北九州市土木部街路課	〒803 北九州市小倉北区城内1の1	093-582-2457
" " "	江草 拓	三菱重工(株)九州支店(広 島造船所橋梁設計課長)	〒812 福岡市博多区博多駅前 2-2-1 福岡センタービル	092-441-3365 広島082-291-2111 (内 3305)
事業部 講習会幹事	大和 竹史	福岡大学工学部教授 土木工学科	〒814-01 福岡市城南区七隈8-19-1	092-871-6631 (内 6467)
" " "	青柳 正文	福岡県土木部 道路建設課橋梁係長	〒812 福岡市博多区東公園7の7	092-651-1111 (内 4085)
" " 委員	井上 哲典	佐賀県土木部 道路課橋梁係長	〒840 佐賀市城内1丁目1-59	0952-24-2111
" " "	広瀬 一郎	大分県佐伯土木事務所 工務第1課	〒876 大分県佐伯市中村南町4-1	09722-2-3171
" " "	佐竹 正行	(株)構造技術センター 福岡事務所技術部長	〒812 福岡市博多区博多駅前 3丁目5-7 博多センタービル	092-471-1655
研究連絡幹事	彦坂 照	九州大学工学部教授 土木工学科	〒812 福岡市東区箱崎6-10-1	092-641-1101 (内 5177)
" "	大塚 久哲	九州大学工学部助教授 土木工学科	〒812 福岡市東区箱崎6-10-1	092-641-1101 (内 5181)
" "	宮地 宏吉	パシフィックコンサルタント (株)福岡支店 設計課長	〒810 福岡市中央区大名2丁目 11-19 赤坂門ビル	092-741-1761
" 委員	八塚 博	日本道路公団福岡建設 局建設第2部構造 技術課長代理	〒810 福岡市中央区天神2丁目13-7	092-721-1511
" "	村山 隆之	福岡北九州高速道路公 社建設部計画課主査	〒812 福岡市東区東浜2丁目7-53	092-631-3281
事務局幹事	藤井 利治	福岡市土木局道路部 道路建設課長	〒810 福岡市中央区天神1丁目10-1	092-711-4464
" 委員	今井富士夫	九州大学工学部 土木工学科助手	〒812 福岡市東区箱崎6-10-1	092-641-1101 (内 5182)
" "	藤岡 秀次	第1復建(株) 設計第1部	〒812 福岡市博多区 博多駅南3丁目5-28	092-431-0724

# 会 員 名 簿

(昭和60年 4 月30日現在)



**KABSE**

Kyushu Association for  
Bridge and Structural  
Engineering

九州橋梁・構造工学研究会



正会員 (第1種)

氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
ア 会田 忠義	山口大学工学部 建設工学教室	宇部市常磐台 〒755	0836-31- 5100内253	橋梁工学
青柳 正文	福岡県 土木部道路建設課	福岡市博多区東公園7番7号 〒812	092-651- 1111内4085	土 木
秋吉 卓	熊本大学工学 土木工学科	熊本市黒髪2-39-1 〒860	0963-44- 2111	耐震工学
安次嶺 清	パシフィックコンサル タンス(株)福岡支社	福岡市中央区大名2-11-19 (赤坂門ビル) 〒810	092-741- 1769	道路工学
足立 俊一	(株)建設技術研究所 福岡支社技術課第2部	福岡市中央区渡辺通2-1-10 (十八福岡ビル) 〒810	092-714- 2211内40	コンクリート 構造
安部 邦弘	オリエンタルコンクリ ート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 サンビル 〒810	092-761- 6931	プレストレスト コンクリート
安部 利行	オリエンタルコンクリ ート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 サンビル 〒810	092-761- 6931内21	
安部 重彦	東和大学工学部 建設工学科	福岡市南区筑紫丘1-1-1 〒815	092-541- 1511内40	基礎工学
天野 一彦	読売九州理工専門学校 土木工学科	北九州市小倉北区明和町1-1 〒802	093-531- 7081	コンクリート 工学
天野 雅之	北九州市建設局土木部 街路課長	北九州市小倉北区城内1-1 〒802	093-582- 2475	
荒牧 軍治	佐賀大学理工学部 土木工学科	佐賀市本庄町1 〒840	0952-24- 5191内2688	構造工学
有住 康則	琉球大学工学部 建設工学科	沖縄県西原町千原59 〒903-01	09889-5- 2221	合成構造
イ 池田 博之	日本道路公団福岡建 設局構造技術課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	093-721- 1511	
池田 肇	横河工事(株)	東京都千代田区平河町2-7-1 〒102	03-263- 0431内201	
池田 義實	住友建設	福岡市中央区港1-3-1 〒810	093-761- 1443内220	土 木
池山 秀男	オリエンタルコンクリ ート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	土木工学
石井 聖治	福岡市土木局道路部 道路計画課	福岡市中央区天神1-10-1 〒810	092-711- 4461	
石川 信隆	防衛大学校 土木工学科	横須賀市走水1-10-20 〒239	0468-41- 3810内2361	構造力学 最適設計

氏 名	勤 務 先	勤務先住所（連絡先）	TEL	専門分野
石倉 寛治		福岡市南区長住7-16-20 （自宅） 〒815	092-551-7382	水工学
石堂 稔	九州産業大学工学部 土木工学科	福岡市東区松香台2-327 〒813	092-681-1831	土質工学
石橋 治	第1復建(株) 設計一部	福岡市博多区駅南3丁目5-28 〒816	092-431-0724	橋 梁
井嶋 克志	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6丁目10-1 〒812	092-641-1101内5186	構造物の 耐 震
石村由美子	トキワ・シビル・ エンジニアリング	福岡市博多区諸岡4丁目28番12号 〒816	092-582-8277	橋 梁
石山 范	運輸省第4港湾建設局 博多港工事事務所	福岡市東区東浜2-2-36 〒812	092-651-9367	
伊勢田哲也	長崎大学工学部 土木工学科	長崎市文教町1-14 〒852	0958-47-1111	土質工学
市川 紀一	日本道路公団福岡建設 局佐賀工事事務所	佐賀市高木瀬町大字高木1476-1 〒840-01	0952-30-2511	
出光 隆	九州工業大学 開発土木工学科	北九州市戸畑区仙水町1-1 〒804	093-871-1931内275	コンクリート 工学
伊藤 整一	前田設計 福岡支店 技術部	福岡市南区大楠1丁目33番14号 （前田ビル） 〒815	092-521-6272	土木
稲富 敏泰	福岡県 土木部道路建設課	福岡市博多区東公園7番7号 〒812	092-651-1111内4082	土木
井上 朝登	福岡北九州高速道路公 社福岡事務所工務課	福岡市東区東浜2-7-53 〒812	092-631-0121内235	橋梁
井上 哲典	佐賀県土木部 道路課	佐賀市城内1丁目1-59 〒840	0952-24-8105	
井上 美治	鉄建建設(株)福岡支店	福岡市中央区大名1丁目15-38 （福岡パレスビル） 〒810	092-712-8231	
今井 博昭	オリエンタルコンクリート (株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	プレストレスト コンクリート
今井富士夫	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641-1101内5182	橋梁工学 塑性力学
今泉 安雄	日本道路公団福岡建設 局構造技術課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721-1511内284	
今西 直人	新日本製鉄(株)八幡製鉄 所 設備部土建室	北九州市八幡東区枝光1丁目1-1 〒805	093-883-1111内5335	土木工学 一 般
岩崎 廣幸	総合技術コンサルタント 九州事務所技術部	福岡市中央区大名1-15-38 福岡パレスビル 〒810	092-712-0624	橋梁工学

氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
鳥野 清	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎 6-10-1 〒812	092-641- 1101内5185	耐震工学
上田 哲	ピーエスコンクリート 福岡支店 土木部	福岡市博多中洲 5-6-20 (明治生命館内) 〒810	092-291- 2244	土木 (PC構造)
牛島敏太郎	岡崎工業㈱ 機工事業本部製造部	北九州市八幡西区築地町 16-1 〒806	093-631- 1111内312	橋 梁
内田 勝士	福岡県道路建設課	福岡市博多区東公園 7-7 〒812 (福岡市早良区西新6丁目5-12) 〒814	092-641-4498 092-851-3576	道 路
内谷 保	鹿児島工業高等専門学校 土木工学科	鹿児島県合良郡隼人町真孝 1460-1 〒899-51	09954-2- 2111内320	構造工学
梅本 明宏	㈱奥村組九州支店 地下鉄箱崎工事務所	福岡市東区箱崎 2-50-14 〒812	092-641- 7846	
瓜生喜久雄	清水建設㈱ 土木本部土木第一部	東京都小平市花小金井 2-752-2 (自宅) 〒187	0424-65- 1712	
エ 江崎 正敏	富士ピー・エス・コン クリート㈱	福岡市中央区天神 2-14-2 (福岡証券ビル) 〒810	092-721- 3475	プレストレス コンクリート
江崎 善愛	富士ピー・エス・コン クリート㈱	福岡市中央区天神 2-14-2 (福岡証券ビル) 〒810	092-721- 3475	構造物
江本 幸雄	福岡大学工学部 土木工学科	福岡市城南区七隈 8-19-1 〒814-01	092-871- 6631内2246	コンクリート 工 学
オ 大島 幸	オリेंटコンクリート㈱ 福岡支店建築部	福岡市中央区天神 4-1-18 〒810	092-761- 6931内54	プレストレス コンクリート
大江 豊	佐世保重工業㈱ 鉄構設計部	佐世保市白岳町 50-14 〒857-11	0956-33- 7881	橋梁工学
太田 俊昭	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎 6-10-1 〒812	092-641- 1101内5180	橋梁工学
太田 則行	日本道路公団 人吉工事事務所	人吉市宝来町字下町 1340-2 〒868	09662-2- 2622	
大塚 茂俊	長崎県土木部 道路建設課	長崎市江戸町 2-13 〒850	0958-24- 1111内3041	道路工学
大塚 久哲	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎 6-10-1 〒812	092-641- 1101内5181	構造力学 橋梁力学
大西 和栄	福岡大学理学部 数学科	福岡市城南区七隈 8-19-1 〒814-01	092-871- 6631	数値解析
大村 啓一	大成建設㈱広島支店	広島県佐伯郡五日市町大字坪井 1415-3		
緒方 隆哉	福岡市役所土木局 道路部街路課	福岡市中央区天神 1-10-1 〒810	092-711- 4469	
岡林 隆敏	長崎大学工学部 土木工学科	長崎市文教町 1-14 〒852	0958-47- 1111内2711	土木構造学



氏名	勤務先	勤務先住所（連絡先）	TEL	専門分野
岡本 良夫	日本鋼管㈱ 名古屋営業所	名古屋市中村区名駅 3-28-12 〒450	052-561- 8611内305	基礎工学
奥田 尚弘	北九州市建設局 土木部街路課	北九州市小倉北区内 1-1 〒803	093-582- 2457	道路工学
鬼塚 克忠	佐賀大学理工学部 土木工学科	佐賀市本庄町 1 〒840	0952-24- 5191内2690	土質工学
織戸 鐵太郎	オリエントコンクリート ㈱福岡支店	福岡市中央区天神 4丁目 1-18 〒810	092-761- 6931	コンクリート 構造
小山 峻	福岡県土木部 道路建設課	福岡市博多区東公園 7-7 〒812	092-651- 1111内4085	土木工学
大城 武	琉球大学工学部 建設工学科	沖縄県西原町千原 〒903-01	09889-5- 2221内2249	構造力学
尾畑 成昭	㈱西日本土木技術	福岡市博多区東光 2-2-22 〒812	092-474- 5175	コンクリート 構造
カ 甲斐 栄一	西松建設㈱九州支店	福岡市中央区薬院 2-7-1 〒810	092-771- 3121	
加藤九州男	九州工業大学 開発土木工学科	北九州市戸畑区仙水町 1-1 〒804	093-871- 1931	土木構造 (耐風)
鹿庭 和史	㈱構造技術センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅前 3-5-7 博多センタービル 〒812	092-471- 1655	
金子 憲治	福岡市農林水産局 農林土木課	福岡市中央区天神 1-8 〒810	092-711- 4359	道 路
金光 宏	日本構造技術㈱	東京都中央区日本橋小舟町 12-10 共同ビル堀留 〒103	03-666- 5411	橋梁工学
川井 優	建設省九州地方建設局 福岡国道工事事務所	福岡市東区名島 3-24-10 〒813	092-681- 4731内201	道路工学
川上 圭二	新日本製鉄 建設開発技術部	東京都千代田区大手町 2丁目 6番 3号 〒100	03-242- 4111内66	基礎工学コン クリート工学
川上 英樹	長大橋設計センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅前 2丁目 4番 17号 〒812	092-472- 3952	橋梁工事
加来 雄一	熊本県土木部道路建設 課橋梁係長	熊本市水前寺 6-18-1 〒862	0963-83 1111内2971	
河野 秀治	富士ピー・エス・コン クリート㈱	福岡市中央区天神 2-14-2 (福岡証券ビル) 〒810	092-721- 3484	プレストレスト コンクリート
河津 学	岡崎工業㈱機工事業本 部製造部橋梁課	北九州市八幡西区築地町 16-1 〒806	093-631- 1111内334	橋 梁
河野 健二	鹿児島大学工学部 海洋土木開発工学科	鹿児島市郡元 1-21-40 〒890	0992-54- 7141内4869	耐震設計

氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
キ 菊野日出男	横河工事(株) 大阪支店	大阪市西区西本町1-3-15 大阪建大ビル 〒550	06-533- 6711	鋼橋
北之園 宏	建設省九州地方建設局 道路部道路計画第二課	福岡市博多区博多駅東2-10-7 〒812	092-471- 6331	
木本 護	建設省九州地方建設局 北九州国道工事事務所	北九州市小倉南区春ヶ丘10-10 〒802	093-951- 4331 内454	下水道 道路
清田 勝	佐賀大学理工学部 土木工学科	佐賀市本庄町1 〒840	0952-24- 5191内2693	環境計画学
清原 秀紀	(株)構造技術センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅前3-5-7 博多センタービル 〒812	092-471- 1655	土 木
ク 日下部岩正	(株)構造技術センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅前3-5-7 博多センタービル 〒812	092-471- 1655	
草野 光司	オリエンタルコンクリ ート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	プレストレスト コンクリート
楠井 徹治	ライト工業(株) 九州支店	福岡市博多区堅粕1-28-44 〒812	092-651- 4331 内60	基礎工
久保 喜延	九州工業大学 土木工学科	北九州市戸畑区仙水町1-1 〒804	093-871- 1931 内273	土木構造 (耐風)
熊谷 義次	日本道路公団 八代工事事務所	八代市本野町662-1 〒866	09653-5- 7181	
倉成 裕之	オリエンタルコンクリ ート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	プレストレスト コンクリート
黒木 健実	福岡大学工学部 土木工学科	福岡市城南区七隈8-19-1 〒814-01	092-871- 6631	構造力学
コ 河野 宏康	福岡北九州市高速道路 公社建設部計画課	福岡市東区東浜2-7-53 〒812	092-631- 3291 内302	振 動
古賀 勝喜	佐賀大学理工学部 土木工学科	佐賀市本庄町1 〒840	0952-24- 5191内2693	構造工学
木暮健一郎	運輸省第4港湾建設局 下関調査設計事務所	下関市竹崎町4-6-1 〒750	0832-31- 3341 内381	構造工学
五反田 進	佐世保市技術開発(株) 土木設計部	佐世保市立神町1 〒857	0956-24- 9175	橋梁工事
小坪 清真	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641- 1101内5184	土木構造学
後藤 栄一	(株)東京鉄骨橋梁製作所	東京都港区芝浦4丁目18-32	03-451- 1141	土 木
後藤恵之輔	長崎大学工学部 土木工学部	長崎市文教町1-14 〒852	0958-47- 1111内2712	土質工学
後藤 茂夫	日本構造技術(株)	東京都中央区日本橋小舟町12-10 (共同ビル掘留) 〒103	03-666- 5411	構造解析

氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
小西 范男	鹿島建設(株)九州支店	福岡市博多区博多駅前3-12-10 〒812	092-441-0211	土木工学
小西 保則	長崎大学工学部 土木工学科	長崎市文教町1-14 〒852	0958-47-1111内2709	橋梁工学
小深田 信昭	オリエンタルコンクリート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4-1-18 サンビル 〒810	092-761-6931 内66	プレストレスト コンクリート
小林 一郎	熊本大学 工学部土木工学科	熊本市黒髪2-39-1 〒860	0963-44-2111内3536	構造工学
小嶺 啓蔵	オリエンタルコンクリート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	プレストレスト コンクリート
サ 斉藤 芳徳	基礎地盤コンサルタンツ(株)福岡支社	福岡市早良区原2-16-7 〒814-01	092-831-2511	土質工学
佐伯 信昭	オリエンタルコンクリート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	土木工学
阪上 昌夫	オリエンタルコンクリート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	土木工学
坂口 修	三井建設(株)九州支店	福岡市博多区博多駅前1-1-1 〒812	092-431-0321	道路工学
坂田 敦彦	(株)日本構造橋梁研究所 大阪支社	大阪市北区芝田2-2-1 新梅田ビル 〒530	06-372-3924	橋梁工学
坂田 隆博	(株)建設技術研究所 福岡支社	福岡市中央区渡辺通2-1-10 十八福岡ビル 〒810	092-714-2211 内46	橋梁工学
崎元 達郎	熊本大学工学部 土木工学科	熊本市黒髪2-39-1 〒860	0963-44-2111	構造工学
佐竹 正行	(株)構造技術センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅前3-5-7 博多センタービル 〒812	092-471-1655	土質および 基礎
佐竹 芳郎	自治省消防庁危険物 規制課	東京都千代田区霞が関2-1-2	03-581-3689	道路計画
坂手 貴志	日本道路公団福岡建設 局技術第2課	福岡市中央区天神2-13-7 長銀ビル 〒810	092-721-1511 内279	
澤山 民季	九州地方建設局 福岡国道工事事務所長	福岡市東区名島3-24-10 〒813	092-681-4731	道路計画
シ 塩田 良一	日本構造橋梁研究所 設計第7課	東京都港区南青山5丁目12番4号 (全業連ビル) 〒107	03-400-9101	プレストレスト コンクリート
重信 孝臣	オリエンタルコンクリート(株)福岡支店 工務部設計課	福岡市中央区天神4-1-18 〒810	092-761-6931	
下川 明	福岡市水道局給水部 水管理センター	福岡市博多区博多駅前1-28-15 〒812	092-441-1201内332	

氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
首藤 勝憲	福岡北九州高速道路公社建設部計画課	福岡市東区東浜2-7-53 〒812	092-631-3291内301	都市計画
正久 良平	岡崎工業(株)機工事業本部設計課橋梁設計課	北九州市八幡西区築地町16-1 〒806	093-631-1111内333	橋梁設計
城 秀夫	(株)構造技術センター福岡事務所	福岡市博多区博多駅前3-5-7 〒818	092-471-1655	
白石 基雄	新日本製鉄(株)建材開発技術部	東京都千代田区大手町2-6-3 〒100	03-242-4111内6670	土木工学
神 弘夫	本州四国連絡橋公団第二建設局坂出工事事務所	香川県坂井市番ノ州町22 〒762	08774-68135内391	橋梁工学
ス 薄 慶治	九州産業大学工学部土木工学科	福岡市東区松香台2-327 〒813	092-681-1831内472	橋梁工学
末永 昭紀	三井石油化学建設資材営業部	神奈川県川崎市宮前区神木2-1-6 (自宅) 〒213	044-855-2782	土質工学
杉田 英明	九州電力(株)総合研究所土木研究室	福岡市南区塩原マイソ497-1 〒815	092-541-0431内393	コンクリート
角 知憲	九州大学工学部土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641-1101内5195	交通工学
セ 関 一毅	新日本製鉄(株)福岡営業所	福岡市博多区博多駅前3-2-1 〒812	092-471-2045	鋼橋梁
ソ 副島 勝	荒谷建設 コンサルタント	広島市中区江波西1丁目25-5 〒733	292-5481	橋 梁
副島 広巳	福岡市交通局工事課	福岡市中央区大名2-5-31 〒810	092-714-3211内512	鉄 道
添田 朋子	福岡大学工学部土木工学科	福岡市城南区七隈8-19-1 〒814-01	092-871-6631内6480	コンピューター
添田 政司	福岡大学工学部土木工学科	福岡市城南区七隈8-19-1 〒814-01	092-871-6631内2246	コンクリート工学
園田 敏矢	大分工業高等専門学校	大分市大字牧1666 〒870-01	0975-58-0077	土木構造
杣 辰雄	(株)橋梁設計事務所九州事務所	福岡市南区大楠1-30-21 〒815	092-522-0500	橋 梁
タ 高須賀 裕	ピー・エス・コンクリート福岡支店土木部設計課	福岡市博多区中洲5-6-20 明治生命館 〒810	092-291-2244	土木設計
高瀬 義晴	大野コンクリート(株)製造部	福岡市早良区大字田425-1 〒814-01	092-871-2736	
高西 照彦	九州工業大学開発土木工学科	北九州市戸畑区仙水町1-1 〒804	093-871-1931内267	耐震工学
高橋 和雄	長崎大学工学部土木工学科	長崎市文教町1-14 〒852	0958-46-5781内2710	土木構造

氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
高橋 司	ピー・エス・コンクリート 福岡支店土木部設計課	福岡市博多区中洲5-6-20 (明治生命館) 〒810	092-291-2244	土木設計
高山 俊一	九州工業大学 開発土木工学科	北九州市戸畑区仙水町1-1 〒804	093-871-1931内283	土木材料学
辰本 朋子	福岡大学工学部 土木工学科	福岡市城南区七隈8-19-1 〒814-01	092-871-6631内6467	化学
多田 忠	ピー・シー橋梁 福岡支店	福岡市中央区舞鶴1丁目2-8 セントラルビル2F 〒810	092-721-5500	プレストレスト コンクリート
田中 一政	五洋建設(株)福岡支店	福岡市博多区博多駅東1-9-1 〒812	092-472-0745	港湾土木
田中 隆男	ショーボンド建設(株) 九州支社	福岡市博多区比恵町9-26 〒812	092-451-4385	コンクリート構 造(補修)
田中 美三	福岡県土木部長	福岡市博多区東公園7-7	092-651-1111内400	土木
田中実喜也	日本道路公団福岡建設 局構造技術課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721-1511内284	構造
田原 賢二	日本道路公団 人吉工事事務所	人吉市宝来町字下町1340-2 〒868	09662-4-2622	耐震工学
ツ 筒井 寅吉	博多港開発(株)	福岡市西区姪浜町547(自宅) 〒814	092-891-8686	港湾
筒井 光男	佐世保重工業(株) 鉄構設計部	佐世保市白岳町50-14 〒857-11	0956-33-7881	橋梁工学
堤 一	宮崎大学工学部 土木工学科	宮崎市霧島1-1-1 〒880	0985-26-3155	耐震工学
テ 手嶋 和男	オリエンタルコンクリ ート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	プレストレスト コンクリート
手嶋 春樹	第1復建(株) 設計一部	福岡市博多区駅南3丁目5-28 〒816	092-431-0724	橋梁
ト 藤内 文夫	オリエンタルコンクリ ート(株)技術部	東京都千代田区5-5 〒102	03-261-1171	プレストレスト コンクリート
徳田 裕一	極東工業(株) 福岡支店 設計課	福岡市博多区博多駅前4-3-22 産恵ビル 〒812	092-473-7541	プレストレスト コンクリート
虎石 龍彦	新日本製鉄(株)鉄構海洋 事業部 若松鉄構海洋 センター	北九州市若松区大字安瀬64-1 〒808	093-761-0534	鋼構造物
ナ 内藤 経一	(株)白石 福岡支店	福岡市中央区大名2-12-10 第2赤坂ビル 〒810	092-751-1437	
中川 浩二	山口大学工学部 建設工学科	宇部市常盤台 〒755	0836-31-5100内255	岩盤力学

氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
長崎 謙二	㈱千代田コンサルタント九州事務所	福岡市博多区綱場町9-28 博多蔵本ビル 〒812	092-271-5771	コンクリート 構造物
中沢 隆雄	宮崎大学工学部 土木工学科	宮崎市霧島1-1-1 〒880	0985-26-3155 内243	コンクリート 構造
中須 誠	日本道路公団福岡建設局構造技術課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721-1511 内284	土質工学
長友 文昭	㈱日本港湾コンサルタント九州事務所	北九州市小倉北区浅野2-7-12 三省ビル 〒812	093-541-0234	
中村 卓史	新日本製鉄㈱八幡製鉄所 設備部土建室	北九州市八幡東区枝光1丁目1-1 〒805	093-883-1111内5335	土木工学
中村 登是	第1復建㈱設計部	福岡市博多区博多駅南3丁目5-28 〒816	092-431-0724	橋 梁
中村 昌弘	㈱福山コンサルタント設計第一部	北九州市小倉北区片野新町1-11-4 〒802	093-931-2586	
中村 宗正	オリエンタルコンクリート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	プレストレスト コンクリート
成富 勝	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6丁目10-1 〒812	092-641-1101内5186	構造物の 耐 震
南里 明	オリエンタルコンクリート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	コンクリート 工学
南里 隆幸	福岡市住宅管理公社	福岡市西区域の原団地24-2040 〒814	☎713-5810- (自)882-3408	
二 西田 巖	日本道路公団福岡建設局構造技術課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721-1511	
西元洋一郎	新日本開発工業㈱九州事務所	福岡市博多区博多駅前3-19-5 博多石川ビル 〒812	092-471-7105	
西山 徹	社団法人日本橋梁建設協会事務理事	東京都中央区銀座2-2-18 鉄骨橋梁会館	03-561-5225	橋 梁
ノ 納富 正樹	オリエンタルコンクリート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	プレストレスト コンクリート
野口 賀右	オリエンタルコンクリート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	
野口 宏一	九地建福岡国道工事事務所調査課	福岡市東区名島3-24-10 〒813	092-681-4731	
ハ 服部 満	ピー・エス・コンクリート福岡支店土木部設計課	福岡市博多区中洲5-6-20 明治生命館 〒810	092-291-2244	土木工学
花田 久	富士ピーエスコンクリート㈱	福岡市中央区天神2-12-1 〒810	092-721-3484	PC構造
浜田 純夫	山口大学工学部 土木工学科	宇部市常盤台 〒755	0836-31-5100 内506	コンクリート構 造合成構造

氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
原田 哲夫	長崎大学工学部 構造工学科	長崎市文教町1-14 〒852	0958-47- 1111内2704	コンクリート 工学
原田 初男	日本道路公団福岡建設 局構造技術課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721- 1511内283	
原田 昌秀	北九州市役所	北九州市小倉北区内1-1 〒803	093-582- 2457	土 木
林田 司	明水エンジニアズ 九州支社 設計課	福岡市博多区祇園町8-13 第1プリンスビル3F 〒812	092-271- 1444	基礎構造
東 正	㈱オリエンタルコンサル タツ福岡支社	福岡市博多区博多駅前3-10-24 藤井ビル 〒812	092-411- 6209	コンクリート 構造物
日野 伸一	山口大学工学部 土木工学科	宇部市常盤台 〒755	0836-31- 5100	コンクリート 工学
彦坂 熙	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641- 1101内5177	構造力学
平井 一男	熊本大学工学部 土木工学科	熊本市黒髪2-39-1 〒860	0963-44- 2111	構造工学
平田 卓	阪神高速道路公団大阪 第二建設部調査課	宝塚市千種4-9-30 B-103 (自宅) 〒665	0797-71- 2700	道路計画
平野喜三郎	大分工業高等専門学校 土木工学科	大分市牧1666 〒870-01	0975-58- 0077内451	コンクリート 工学
広瀬 一郎	大分県佐伯土木事務所 工務課二課二係	大分市牧7-4(自宅) 〒870	0975-58- 5150	
広門 正康	株木建設㈱九州支店	福岡市博多区博多駅前1-1-33 〒812	092-471- 1841	
福屋 智亘	日本鋼管㈱建材条鋼 営業部	東京都千代田区丸の内1-1-2 〒100	03-212- 7111内2378	土質・基礎
福山 俊弘	㈱福山コンサルタント 設計第一部	北九州市小倉北区片野新町1-11-4 〒802	093-931- 2586	
藤井 利治	福岡市土木局道路部 道路建設課	福岡市中央区天神1-10-1 〒810	092-711- 4463	
藤岡 秀信	鹿島建設㈱ 九州支店土木部	福岡市博多区博多駅前3-12-10 〒812	092-441- 0211	土 木
藤岡 秀次	第一復建㈱ 設計第1部	福岡市博多区博多駅前3-5-28 〒812	092-431- 0724	
藤本 廣	宮崎大学工学部 土木工学科	宮崎市霧島1-1-1 〒880	0985-26- 3155	土質工学
藤本 良雄	富士ピーエスコンクリ ート㈱福岡支店	福岡市中央区天神2-14-2 福岡証券ビル 〒810	092-721- 3484	プレストレスト コンクリート
刈田 邦彦	八代工業高等専門学校 土木建築工学科	熊本県八代市平山新町2627 〒866	0965-35- 1611内294	土木構造

氏 名	勤 務 先	勤務先住所（連絡先）	TEL	専門分野
古川 浩平	山口大学工学部 建設工学科	宇部市常盤台 〒755	0836-31- 5100 内248	構造設計学 耐震工学
古城 一省	八千代エンジニアリン グ(株)九州支店	福岡市中央区天神1-6-7 安田生命ビル7階 〒810	092-751- 1431	ダ ム
へ 戸次 哲夫	サンコーコンサルタン ト(株)福岡支店	福岡市博多区中洲中島町3-3 児島ビル 〒812	092-271- 2903	
ホ 帆足又十郎	九州電力(株) 土木部水力開発課	福岡市中央区渡辺通2-1-82 〒810	092-761- 3031内3313	電力土木
堀口 潔	(株)構造技術センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅前3-5-7 博多センタービル	092-471- 1655	
マ 前田 研一	川田工業(株) 技術本部研究室	東京都北区滝野川1-3-11 〒114	03-915- 4321	橋梁工学
前田 良刀	日本道路公団福岡建設 局構造技術課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721- 1511内283	構造力学
牧角 龍憲	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641- 1101内5191	コンクリート 工 学
益井 征夫	構造技術センター	東京都千代田区富士見2-4-6 (川崎市麻生区上麻生1573-22)	03-230-2941 044-966-3105	
益田 秀樹	佐世保重工業(株) 鉄構設計部	佐世保市白岳町50-14 〒857-11	0956-33- 7881	橋梁工学
町田 健夫	新日本製鉄(株) 福岡営業所橋梁工事業	福岡市博多区博多駅前3-2-1 〒812	092-471- 2072	鋼構造物
真次 寛	福岡市役所土木局 道路建設課	筑紫野市大字塔ノ原493-1 (自宅) 〒818	092-923- 7048	
松井 謙二	(株)建設技術研究所 技術第2部	福岡市中央区渡辺通2-1-10 (十八福岡ビル) 〒810	092-714- 2211	土質基礎
松尾 宏一	オリエンタルコンクリ ート福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 サンビル内 〒810	092-761- 6931	プレストレスト コンクリート
松尾 芳郎	佐賀県土木部 道路課	佐賀市城内1丁目1-59 〒840	0952-24- 8105	
松下 貞義	東京エンジニアリング (株)	東京都中央区八丁堀4-12-4 〒104	03-553- 5514	鋼構造 コンクリート
松下 博通	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641- 1101内5190	コンクリート 工 学
松田 光弘	新日本開発工業(株) 九州事務所	福岡市博多区博多駅前3-19-5 博多石川ビル 〒812	092-471- 7105	
松田 浩	長崎大学工学部 構造工学科	長崎市文教町1-14 〒852	0958-47- 1111内2701	構造工学
松永 周三	鹿島建設(株) 長崎営業所	長崎市栄町3-9 〒852	0958-23- 2435	土木工学



氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
松永 静男	佐世保技術開発㈱ 土木設計部	佐世保市立神町1 〒857	0956-24-9175	橋梁工学
松永文治郎	オリエンタルコンクリート㈱	鹿児島市金生町6-13 井上ビル5F 〒892	0992-25-6746	プレストレスト コンクリート
松本 晃一	日本道路公団 人吉工事事務所	人吉市宝来町字下町1340-2 〒868	09662-4-2622	
松本 成男	宮崎県土木部長	宮崎市橋通東2-1 (宮崎市丸山2-28) 〒880 〒880	0985-24-1111 内2316 (0985-24-2790)	都市交通
丸田 浩	㈱堀内組	佐世保市光町14-2 (自宅) 〒858	0956-48-4395	設計
丸山 巖	大分工業高等専門学校 土木工学科	大分市大字牧1666 〒870-01	0975-58-0077 内451	コンクリート 工学
丸山 峯男	日本道路公団福岡建設 局構造技術課	福岡市中央区天神2-13-7 長銀ビル 〒810	092-721-1511 内283	橋梁設計
三池 亮次	熊本大学工学部 土木工学科	熊本市黒髪2-39-1 〒860	0963-44-2111	構造工学
三浦 房紀	山口大学工学部 建設工学科	宇部市常盤台 〒755	0836-31-5100 内383	耐震工学
三浦 正昭	日本文理大学工学部 土木工学科	大分市大字一木 〒870-03	0975-92-1600 内293	土木材料鉄筋 コンクリート工学
水上 義喜	福岡市役所土木局道路 部街路課	福岡市中央区天神1-10 〒810	092-711-4471	
水田 権作	富士ピーエスコンクリート㈱	福岡市中央区天神2-14-2 福岡証券ビル 〒810	092-721-3475	プレストレスト コンクリート
水田 洋司	八代工業高等専門学校 土木建築工学科	熊本県八代市平山新町2627 〒866	0965-35-1611 内253	構造力学 振動学
宮川 邦彦	九州産業大学工学部 土木工学科	福岡市東区松香台2-327 〒813	092-681-1831 内476	コンクリート 工学
宮崎 英紀	千代田化工建設ベトミン /モービルプロジェクト本部	横浜市鶴見区中央2-12-1 〒230	045-521-1231 内2750	
宮地 宏古	パシフィックコンサル タツツ㈱福岡支社	福岡市中央区大名2-11-19 赤坂門ビル 〒810	092-741-1761	橋梁工学
宮村 重範	佐世保重工業㈱ 鉄構設計部	佐世保市白岳町50-14 〒857-11	0956-33-7881	橋梁工学
村上 良丸	宮崎大学工学部 土木工学科	宮崎市霧島1-1-1 〒880	0985-26-3155	材料工学
村山 隆之	福岡北九州高速道路公 社建設部計画課	福岡市東区東浜2-7-53 〒812	092-631-3291 内304	
毛利 一之	佐賀県土木部 道路課	佐賀市城内1丁目1-59 〒840	0952-24-8105	

氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
森 巖	福岡北九州高速道路公社北九州事務所工事課	北九州市小倉北区東篠崎 3-1-1 〒802	093-922-6811	土 木
森 匠二	福岡市役所土木局道路部街路課	福岡市中央区天神 1-10-1 〒810	092-711-4469	
森 憲久	極東工業(株)福岡支店設計課	福岡市博多区博多駅前4-3-22 産恵ビル 〒812	092-473-7541	プレストレスト コンクリート
森 博人	日本道路公団八代工事事務所	八代市本野町 662-1 〒866	0965-35-7181	
森山 溶州	新日本製鉄(株)スラグ事業開発部	東京都杉並区西荻南 2-12-19 (自宅) 〒167	03-332-4749	コンクリート
山内勇喜男	鹿児島県土木部道路建設課	鹿児島市山下町 14-15 〒892	0992-26-8111内3040	
山尾 敏孝	熊本大学工学部土木工学科	熊本市黒髪 2丁目 39-1 〒860	0963-44-2111内3533	構造力学
山川 武春		北九州市小倉南区徳力団地 60-305 (自宅) 〒803	093-961-3114	道路・土質
山口 一弘	建設省大臣官房政策企画官	東京都千代田区霞が関 2-1-3 〒100	03-580-4311 内293	水理・河川
山口 忍	佐世保重工業(株)鉄構設計部	佐世保市白岳町 50-14 〒857-11	0956-33-7881	橋梁工学
山崎 明	長大橋設計センター福岡事務所	福岡市博多区博多駅東 2丁目 4番 17号 〒812	092-472-3952	橋梁工学
山崎 竹博	九州産業大学工学部土木工学科	福岡市東区松香台 2-327 〒813	092-681-1831 内476	コンクリート 工 学
山下 正寛	オリエンタルコンクリート(株)福岡支店	福岡市中央区天神 4丁目 1-18 〒810	092-761-6931	土木工学
大和 竹史	福岡大学工学部土木工学科	福岡市城南区七隈 8-19-1 〒814-01	092-871-6631	コンクリート 工 学
山登 武志	(株)建設技術研究所開発技術室	東京都中央区日本橋本町 4-2 第9中央ビル 〒103	03-668-0451 内531	橋梁設計
山本 典幸	福岡北九州高速道路公社	福岡市東区東浜 2-7-53 〒812	092-631-3291 内300	
山本 宏	九州工業大学開発土木工学科	北九州市戸畑区仙水町 1-1 〒804	093-871-1931 内272	構造力学 橋梁工学 橋梁美学
山本 恭久	福岡市住宅管理公社業務課	福岡市中央区天神 3-10-25 森建ビル 〒810	092-713-5810	振 動
山本 茂樹	建設省九州地方建設局企画部長	福岡市博多区博多駅東 2-10-7 〒812	092-471-6331内207	道 路
山崎 惟義	福岡大学工学部土木工学科	福岡市城南区七隈 8-19-1 〒814-01	092-871-6631	

氏名	勤務先	勤務先住所（連絡先）	TEL	専門分野
矢吹 哲哉	琉球大学工学部 土木工学科	沖縄県西原町千原 〒903-01	09889-5- 2221内2735	橋梁工学 鋼構造工学
ユ 湯谷 功	オリエンタルコンクリ ート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	
ヨ 横田 漢	宮崎大学工学部 土木工学科	宮崎市霧島1-1-1 〒880	0985-26- 3155 内245	基礎工学 土木計画学
吉崎 信之	福岡北九州高速道路公 社技術管理課	福岡市東区東浜2-7-53 〒812	092-631- 3291 内324	橋梁工学
吉田 信夫	福岡大学工学部 土木工学科	福岡市城南区七隈8-19-1 〒814-01	092-871- 6631	土質力学 交通工学
吉田 須直	オリエンタルコンクリ ート㈱	福岡市中央区天神4-1-18 〒810	092-761- 6931	プレストレスト コンクリート
吉開 正文	第一復建㈱社長	福岡市博多区博多駅南3-5-28 〒812	093-431- 0724	
吉村 健	九州産業大学工学部 土木工学科	福岡市東区松香台2-327 〒813	092-681- 1831 内473	耐風構造
吉新 達夫	日本道路公団福岡建設 局技術第一課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721- 1511	
ワ 若槻 良行	日本道路公団福岡建設 局工務第一課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721- 1511	
渡辺 明	九州工業大学 開発土木工学科	北九州市戸畑区仙水町1-1 〒804	093-871- 1931 内274	コンクリート 工学
渡辺 宏明	オリエンタルコンクリ ート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	土木工学
和田 敏雄	㈱建設技術研究所 福岡支社	福岡市中央区渡辺通2丁目1-10 十八福岡ビル 〒810	092-714- 2211	河川構造

正会員 (第2種)

会 社 名	連 絡 先	代 表 者 (連 絡 者)	TEL	専 門 分 野
青木建設 福岡支店	福岡市博多区博多駅東1丁目1-25 (宝ビル) 〒812	小松 皓道	092-431-7512	
浅沼組 福岡支店	福岡市博多区博多駅南1-14-8 〒812		092-411-0636 内 304	総合建設
安部工業所 福岡支店	福岡市博多区博多駅東1丁目9番1号 松栄ビル6F 〒812	古畑美喜雄	092-441-5481	コンクリート構造物 (P. C)
アルス製作所	徳島市南田宮1丁目1-62 〒770	坂本 好	0886-31-2191	
飯田建設	福岡市博多区東比恵2-15-25 〒812	坂根 信彦	092-441-3805	
石川島建材工業 株	東京都中央区八重洲2-6-21 ローズベイ八重洲ビル 〒104	寺崎 勝	03-277-4375	
石川島建材工業 株	福岡市中央区渡辺通2-1-81	八田 公雄 芥川 浩	092-713-6298	
石川島播磨重工業 株 呉新宮工場	広島県呉市光町5-17 〒737	新田 正芳 永田 勉	0823-22-2345	鋼構造
石川島播磨重工業 株 九州支店	福岡市中央区渡辺通2-1-82 〒810	木村 博行	092-771-7241	
梅林建設 福岡支店	福岡市中央区大名1-4-1 NDビル (福岡支店) 〒810	竹中 弘起	092-712-9111 内 27	施 工
エイコー コンサルタント	福岡市中央区中尾5丁目3-9	竹田 秀実	092-522-1814	構造、道路、 港湾
大野コンクリート 株	福岡市早良区大字田425-1 〒814-01	大野 雅由	092-871-2736	コンクリート二次 製品製造販売
大林組 福岡支店	福岡市博多区下川端町9番12号 福岡武田ビル 〒812	柳 好	092-271-5721	
大本組 福岡支店	福岡市中央区舞鶴2-2-3 サンライフ第2ビル 〒810	池田 教嘉	092-771-6981	
岡崎工業	北九州市八幡西区築地町16-1 (機工事業本部製造部) 〒806	川副 静城	093-631-1111 内 330	鋼構造物
奥村組 九州支店	北九州市八幡東区山王2-19-1 〒805	小林 五六	093-671-3131	総合建設業

会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	TEL	専門分野
オリエンタル コンクリート㈱	福岡市中央区天神4-1-18 サンビル 〒810	小深田信昭	092-761-6931	プレストレスト コンクリート
㈱オリエンタルコンサル タンツ 福岡支社	福岡市博多区博多駅前3-10-24 藤井ビル 〒812		092-411-6209	鋼構造 コンクリート
鹿島建設㈱ 九州支店	福岡市博多区博多駅前3-12-10 〒812	小西 范男	092-441-0211	総合建設業
㈱片山鉄工所	大阪市大正区南恩加島6丁目 2-21 〒551 福岡市中央区天神1-10-17 西日本ビル内九州営業所 〒810	小澤 健作 佐伯 禮行 金子 豊 井原 三郎	06-552-1231 (092-761-2362)	橋 梁
川崎重工業㈱ 九州支社	福岡市博多区上呉服町10番1号 (博多三井ビル) 〒812	西村 駒幸	092-271-8541	鋼 橋
川崎製鉄㈱ 九州営業所	福岡市中央区天神1丁目14-1 日本生命ビル 〒810	羽辺 幸司	092-711-1521	鋼構造物 鋼材全般
川鉄鉄構工業㈱ 福岡営業所	福岡市博多区博多駅中央街8番 36号 博多ビル 〒812	野元 義行	092-474-0957	
川田建設㈱ 九州営業所	福岡市博多区博多駅東2-5-19 サンライフ第3ビル 〒812	岡崎 信幸	092-474-0828	PSコンクリート プレブーム
川田工業㈱ 九州営業所	福岡市博多区博多駅東2-5-19 サンライフ第3ビル 〒812	川口 伸一	092-431-7288	鋼橋・プレブー ム製作施工
九州建設コンサル タント㈱	大分市大字新貝367 〒870	佐藤 力	0975-51-6211	建設コンサルタ ント全般
九州電力㈱	福岡市中央区渡辺通2-1-82 〒810	( 山川 )	092-761-3031 内 2312	
㈱橋梁コンサルタン ト福岡営業所	福岡市中央区警固2-13-2 島崎ビル 〒810	津田 敏秀	092-741-4038	
㈱橋梁設計事務所 九州事務所	福岡市南区大楠1-30-21 〒815		092-522-0500	
㈱協和コンサル タンツ	福岡市博多区築港本町5-1 (福岡支社) 〒812		092-271-5511	建設コンサルタン ト全般
極東工業㈱ 福岡支店	福岡市博多区博多駅前4-3-22 産恵ビル4F 〒812	奥 窪 和 夫	092-473-7541	プレストレスト コンクリート
㈱栗本鉄工所 九州支店	福岡市博多区博多駅南1-3-11 〒812	田原 政彦	092-431-1582	橋梁上部工
㈱ケー・シー・ エス 西部事務所	福岡市博多区博多駅東1-18-1 新栄東ビル 〒812	宮内 彬	092-472-4521	環境科学・地域 計画・交通計画
㈱建設企画 コンサルタント	福岡市博多区博多駅南3-4-24- 812 福岡営業所 〒812	福住 隆二	092-471-8936	土質基礎
㈱建設技術研究 所 福岡支社	福岡市中央区渡辺通2-1-10 十八福岡ビル 〒810	和田 敏雄	092-714-2211	

会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	TEL	専門分野
㈱構造技術センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅前3-5-7 博多センタービル 〒812	日下部岩正	092-471-1655	
㈱古賀建設	諫早市永昌東町6-10 〒854	古賀哲郎	09572-2-2222	
㈱駒井鉄工所 福岡営業所	福岡市博多区博多駅東2-4-17 第6岡部ビル 〒812	内村幸雄	092-441-3665	橋 梁
五洋建設㈱ 福岡支店	福岡市中央区渡辺通2-1-82 電気ビル別館 〒810	岩松正憲	092-781-5151	土 木
佐世保重工業㈱ 鉄構設計部	佐世保市白岳町50-4 〒857-11	宮村重範 (大江 豊)	0956-33-7881	
桜田機械工業	千葉県市川市二俣新町21 桜田機械工業㈱技術開発室 〒272-01	鈴木康弘 (取締役 技術 開発室長)	0473-28-3145 内 250	鋼 構 造
佐世保技術開発㈱	佐世保市立神町1 〒857	五反田進 松永静雄	0956-24-9175	建設 コンサルタント
佐藤鉄工㈱ 福岡営業所	福岡市博多区比恵町2番1号 〒812	堀田貞夫	092-474-0421	
㈱佐藤組 福岡支社	福岡市南区清水1-2-32 〒815		092-541-0050	
佐藤工業㈱ 九州支店	福岡市中央区赤坂2-6-11 〒810	浦田滋昭	092-771-7831	総合建設業
サンコーコンサル タント㈱福岡支社	福岡市博多区中洲中島町3-3 〒810	松藤 茂	092-271-2903	
ジーアンドエスエン 지니어リング㈱ 九州支社	福岡市中央区舞鶴2-2-6 〒810	西 登喜夫 (村松)	092-761-5313	建設コンサル タツ
㈱志多組	宮崎市高千穂通1-4-30 〒810	志多孝彦	0985-24-3151	
清水建設㈱ 九州支店	福岡市中央区赤坂1-1-29 〒810	森井哲也	092-771-9151	建 築
シヨーボンド建設㈱ 九州支社	福岡市博多区比恵町9-26 〒812	田中隆男	092-451-4385	
㈱新構造技術 九州事務所	福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル 〒812	風間三雄	092-451-5797	
新日本開発工業 ㈱九州事務所	福岡市博多区博多駅前3-19-5 博多石川ビル 〒812	前田慶之助	092-471-7105	建設コンサル タント
新日本 コンクリート	福岡県粕屋郡志免町大字志免 90番地 〒811-22	杉山照夫 (高口政次)	092-935-1382	P C
新日本製鉄㈱ 福岡営業所	福岡市博多区博多駅前3-2-1 日生博多駅前ビル 〒812		092-471-2045	鋼構造物

会 社 名	連 絡 先	代 表 者 (連 絡 者)	TEL	専 門 分 野
新日本土木(株) 福岡支店	福岡市中央区平尾5-3-46 〒810	山本輝男	092-531-3231	
(株)白石 福岡支店	福岡市中央区大名2-12-10 第二赤坂ビル5F 〒810	内藤経一	092-751-1437	橋梁基礎
住友建設(株) 九州支店	福岡市中央区港1-3-1 〒810		092-761-1443	総合建設業 (特にコンク リート橋)
住友重機械工業 (株)九州営業所	福岡市中央区天神2-14-8 福岡天神センタービル 〒810	坂井 守	092-711-9421	
(株)銭高組 福岡支店	福岡市博多区店屋町2-16 〒812	武藤正男	092-291-3939	土木施工
(株)総合技術 コンサルタント 福岡営業所	福岡市中央区大名1-15-38 福岡パレスビル 〒810		092-712-0624	
第一復建(株)	福岡市博多区博多駅南3-5-28 〒812	手島春樹	092-431-0724 内 58	鋼 構 造
大成建設(株) 九州支店	福岡市中央区大手門1-2-22 〒810	寺尾善雄	092-771-1111 内 350	
大成道路(株) 九州支社	福岡市博多区博多駅東2-17-5 モリメンビル内 〒812	小林弘泊	092-471-1271	
(株)ダイヤコンサル タント 福岡支店	福岡市博多区博多駅前3-14-24 〒812	林 嘉宜	092-473-0821	地質部門
瀧上工業(株) 福岡営業所	福岡市中央区荒戸1丁目11番 6号 〒810	安藤正治	092-741-1253	鋼 橋
高田機工(株) 福岡営業所	福岡市博多区博多駅前2-19-29 〒812	東本圭介	092-473-0945	鋼 構 造
(株)千代田コンサル タント九州事務所	福岡市博多区綱場町9-28 博多蔵本ビル 〒812	三島孝英	092-271-5771	建設 コンサルタント
(株)長大橋設計 センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅東2-4-17 (第6岡部ビル) 〒812	川上英樹	092-472-3952	
鉄建建設(株) 福岡支店	福岡市中央区大名1-15-38 〒810	加治屋盛夫	092-712-8231	建 設
東亜建設工業(株) 九州支店	福岡市博多区博多駅前3-5-7 〒812	鳥居一守	092-472-3712	総合建設業
(株)東京建設コン サルタント 九州支店	福岡市中央区天神4丁目1-17 福岡飛栄ビル 〒810	堀川光治	092-761-5941	
(株)東京鉄骨橋梁 製作所防府工場	山口県防府市大字浜方字鶴浜 283-1 〒747	小林久章	0835-23-6293	鋼構造物

会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	TEL	専門分野
トピー工業(株) 福岡営業所	福岡市博多区博多駅前南6丁目 8番1号 〒812	小林孝明	092-451-1010	鋼構造物
東洋建設(株) 九州支店	福岡市中央区天神1-10-24 三和ビル 〒810		092-761-5541	
飛鳥建設(株) 福岡支店	福岡市中央区六本松3-11-28 〒810	今村太司郎	092-771-3561 内55	
ドービー建設工業 (株) 福岡支店	福岡市博多区博多駅前1-3-2 八重洲博多駅前ビル	吉田清次	092-441-9131	
西日本技術開発 (株)	福岡市中央区渡辺通1-1-1 〒810	田代信雄	092-781-1353 内307	建設コンサル タント
西日本鉄道(株) 電車局 建設事務所	福岡市中央区天神2-2-68 〒810	松井寛人	092-761-0116	
日本鋼管(株) 名古屋営業所	名古屋市中村区名駅3-28-12 大名古屋ビル10F 〒450	斉藤良算	052-561-8611	鋼橋の 設計施行
日本構造橋梁 研究所	福岡市博多区駅前3-19-14 ビーエスビル 〒812	乙藤 憲一 (塩田良一) (鬼丸敏男)	092-472-7363	
日本橋梁(株)	大阪市港区福崎2丁目1番30号 〒552	小野精一 (橋梁本部設 計部)	06-571-6475 内410	橋梁鉄骨鉄塔 の設計製作架 設
西鉄シーイー コンサルタント	福岡市渡辺通り2丁目5-6 〒810	松本一城	092-781-2441	鉄 道
西松建設(株) 九州支店	福岡市中央区薬院2-7-1 〒810	甲斐栄一	092-771-3121	
日東エンジニアリ ング(株)九州支店	福岡市中央区大手門3-4-3 東ビル 〒810	下釜淳一郎	092-713-8861	
日特建設(株) 福岡支店	福岡市中央区天神1-6-7 安田生命福岡ビル 〒810	西原恒雄	092-781-6051	基礎工事
日本構造技術(株)	東京都中央区日本橋小舟町12-10 共同ビル・堀留 〒103	後藤茂男	03-666-5411	建設コンサル タント
日本国土開発(株) 九州支店	福岡市博多区上呉服町10-1 博多三井ビル 〒812		092-281-2688	
日本鉄塔工業 (株)若松工場	北九州市若松区北浜1-7-1 〒808	河野 巖	093-761-2131 内231	鋼構造 (橋梁)
日本道路(株) 九州支店	福岡市南区大楠2-12-12 〒815	北間和夫	092-521-0736	
日本ピー・エス コンクリート(株) 福岡支店	福岡市中央区天神2-4-45 〒810	阿部哲也	092-781-5086	



会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	TEL	専門分野
㈱間組 福岡支店	福岡市中央区薬院3-16-27 〒810	(金田淳一)	092-531-5031 内521	総合建設業
春本鉄工所 福岡営業所	福岡市博多区博多駅前3丁目 16番10号 興産ビル3F	倉橋天彦	092-473-6027	土木工学
パシフィックコン サルタンツ㈱ 福岡支社	福岡市中央区大名2-11-19 赤坂門ビル 〒810		092-741-1761	建設コンサル タント
日立造船㈱ 九州支社	福岡市博多区博多駅前3-2-1 〒812	西利夫	092-441-1644	
ピーシー橋梁㈱ 福岡支店	福岡市中央区舞鶴1丁目2番8号 〒810 (同上) 設計課	松本成昭 (多田忠)	092-721-5500	プレストレスト コンクリート
東日本鉄工㈱ 福岡営業所	福岡市南区大楠1丁目35-19 〒815	福島誠	092-522-0744	鋼橋 (鋼構造物)
ピー・エス・コンクリ ート㈱福岡支店	福岡市博多区中洲5-6-20 (明治生命館) 〒810		092-291-2244	プレストレスト コンクリート
㈱福山コンサル タント	北九州市小倉北区片野新町1-11 -4 〒802	福山俊郎	093-931-2586	
富士車輛㈱	大阪府南河内郡狭山町大字池尻 383番地 〒589	加藤竹治 (橋梁営業部)	内312	橋梁立体駐車 場 鋼構造物
フジタ工業㈱ 九州支店	福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル 〒812		092-521-4997	
富士ピ・エス・コン クリート㈱	福岡市中央区天神2-14-2 福岡証券ビル 〒810	水田権作 (河野秀治)	092-721-3475	プレストレスト コンクリート
前田設計㈱ 福岡支店	福岡市南区大楠1-33-14 前田ビル 〒815	溝渕幹之	092-521-6272	
松尾建設㈱	佐賀市多布施1-4-27 〒840	松尾幹夫 (古賀良治)	0952-24-1181	
マグネ化学㈱	福岡市中央区西中洲2番11号	大串義之 (板東宏明)	092-741-3533	化学薬品
松尾橋梁㈱	大阪市大正区鶴町3丁目4-18 〒551 (福岡市博多区博多駅前2丁目 17-5) モリメンビル 福岡営業所 〒812	早水克行	06-552-1591  (092-451-6925)	

会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	TEL	専門分野
丸誠重工業(株) 九州営業所	福岡市博多区博多駅前4丁目4番 21号 長崎県産業会館 〒812	井手久夫	092-473-1921	鉄鋼構造物
三井建設(株) 九州支店土木部	福岡市博多区博多駅前1-1-1 〒812	高浜哲郎	092-431-0321	総合建設業
三井造船(株) 九州支店	福岡市博多区博多駅前1丁目1番 1号 〒812	石田元明	092-411-8111	
(株)宮地鐵工所 福岡営業所	福岡市中央区大名1丁目1番3号 石井ビル 〒810	佐甲 雄 (矢野博美)	092-751-1206	鋼 橋
宮地建設工業(株) 大阪支店	大阪市北区曽根崎新地1丁目3-23 成晃ビル	中上達生	06-344-4821	橋梁架設施工
三菱重工(株) 九州支店	福岡市博多区博多駅前2-2-1 福岡センタービル 〒812	池田専造	092-441-3865	
南日本高圧 コンクリート(株)	鹿児島県川内立宮内町2123 〒895	下八尻鉄蔵 (吉田政稔)	0996-22-5225	PC橋梁
(株)横河橋梁製作所 福岡営業所	福岡市博多区博多駅前2-2-1 福岡センタービル11F (福岡営業所) 〒812	荒井利男	092-431-6187	鋼構造物
若築建設(株) 九州支店	福岡市博多区中呉服町2-1 〒812	下川清人	092-281-4511	
横河工事(株)	東京都千代田区平河町2-7-1 〒102	奥富稔雄	03-263-0431	

## 編集後記

風薫る日に、会報第2号をお届け致します。

初めに、編集に当りご協力を賜りました方々に深甚の謝意を表します。

本会もいよいよ動き始め、講演会・講習会の盛況、分科会活動の活発化等着々と実績を積み上げつゝあります。本年中には論文集も発刊が予定されており、成果も一段と充実の度合を増してくることゝ存じます。

勢い、会報編集にも力が入り、本号から全会員への直接のサービスを旨としたコーナー〈Q&A〉

を新設致しました。皆様ご利用の程お願い申し上げます。

本後記を書く今日、5月5日、男の節句です。

さわやかに、「鯉のぼり」を皆様と唱いつつ、結びとさせていただきます。

菟の波と 雲の波  
重なる波の 中空を  
橋かおる 朝風に  
高く泳ぐや 鯉のぼり

昭和60年5月5日

(会報編集小委員会)

---

## 九州橋梁構造工学研究会会報

昭和60年6月13日発行

編集 会報編集小委員会  
出光 隆

発行事務局

〒810 福岡市中央区天神1-10-1  
福岡市土木局道路部道路建設課  
藤井利治

電話(092)-711-4464

印刷所 シンチャ印刷

〒807 北九州市八幡西区本城東4-2-26

電話(093)602-7201

---



**KABS**

KYUSHU ASSOCIATION  
BRIDGE AND STRUCTURE  
ENGINEERING

---

九州橋梁・構造工学研